

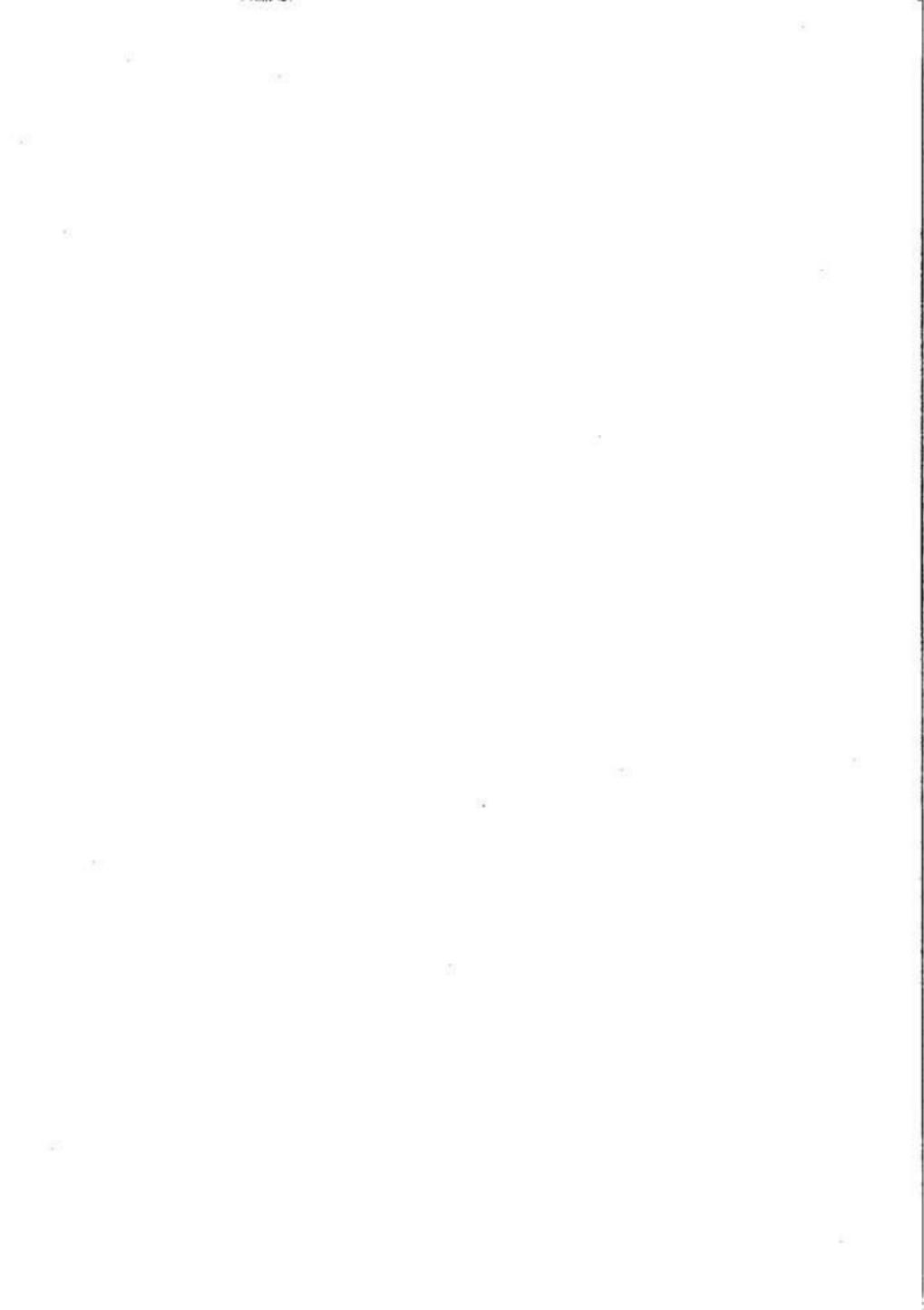
東郷遺跡

財団法人八尾市文化財調査研究会報告48

- I 東郷遺跡（第30次調査）
- II 東郷遺跡（第42次調査）
- III 東郷遺跡（第45次調査）
- IV 東郷遺跡（第46次調査）

1995年

財団法人 八尾市文化財調査研究会



正誤表

報告 48 東郷遺跡

頁	行	誤	正
第30次調査例言	9行目	中西・西村(和)	中西明美・西村和子
	10行目	石原	石原好恵
1	20行目	同文化財課から	同文化財課では
3	7行目	(西から1~2)	(南から1~2)
	"	(南からA~C)	(西からA~C)
5	基本層序	タイトルぬけ	第3図 南壁面
	"	X:10 X:5	Y:10 Y:5
7	第5図	③灰茶色細砂混粘土	④灰茶色細砂混粘土
45	第3図層序	8. 庄白色細砂~粗砂	8. 灰白色細砂~粗砂
46	第4図層序	2. 茶褐色砂礫混砂質土	5. 茶褐色砂礫混砂質土
47	17行目	1D区~2E区	1D区~1E区

東郷遺跡

財団法人八尾市文化財調査研究会報告48

- I 東郷遺跡（第30次調査）
- II 東郷遺跡（第42次調査）
- III 東郷遺跡（第45次調査）
- IV 東郷遺跡（第46次調査）

1995年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市の位置する河内平野は、古来より幾度となく伊太和川の氾濫を受けながら、その自然環境のもと、豊かな土壤に育まれてきた地域であります。

この平野部には古来より先人達が生活するうえで築いてきた貴重な文化遺産が数多く埋蔵されております。また同市の東部に連なる信貴生駒山系の西麓部にも平野部と同様、数多くの文化遺産が埋蔵されています。

近年八尾市内では、大小様々な分野での開発事業が進められるようになり、21世紀に向け近代都市へと大きく変貌しようとしております。しかし、こうした開発は便利さや豊かさを与えてくれる反面、先人達の数々の足跡である文化遺産を破壊する危険な面を持っています。確かに一部の遺跡では整備され保存・保護されているとはいえ、そのほとんどは痕跡を止めず消滅してきます。そこで、私共では「開発の波」に呑まれ、失われていく貴重な文化遺産を後世の人々へ伝承することが責務であると認識し、破壊される遺跡について発掘調査を実施して記録保存に努めております。

今回、平成元年度に実施しました東郷遺跡（第30次）、平成5年度に実施しました東郷遺跡（第42次・第45次）、平成6年度に実施しました東郷遺跡（第46次）の調査および整理が完了しましたので報告書を刊行する運びとなりました。本書が学術研究及び本市の地域史の資料として、さらに文化財保護への啓発普及に活用して頂ければ幸いります。

末筆となりましたが、調査においてご協力いただきました関係各位の皆様方に深くお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

1995年7月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 木山丈司

序

1. 本書は財團法人八尾市文化財調査研究会が平成元年度、平成5年度、平成6年度に実施した発掘調査成果報告を収録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現場終了後に着手し、平成7年度をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、下記のとおりである。
 1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1（昭和61年8月）、八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（平成5年10月1日改訂）をもとに作成した。
 1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。
 1. 本書で用いた方位は磁北及び国上座標の真北を示している。
 1. 造構は下記の略号で表した。
 溝-SD 井戸-SE 土坑-SK 小穴-SP 自然河川-NR
 1. 造物尖端図は、断面の表示によって次のように分類した。
 弥生土器・土師器・瓦器・石類-白、須恵器・陶磁器-黒、木製品-斜線。
 1. 各調査に際して発掘調査、写真・尖端図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

目 次

はしがき

序

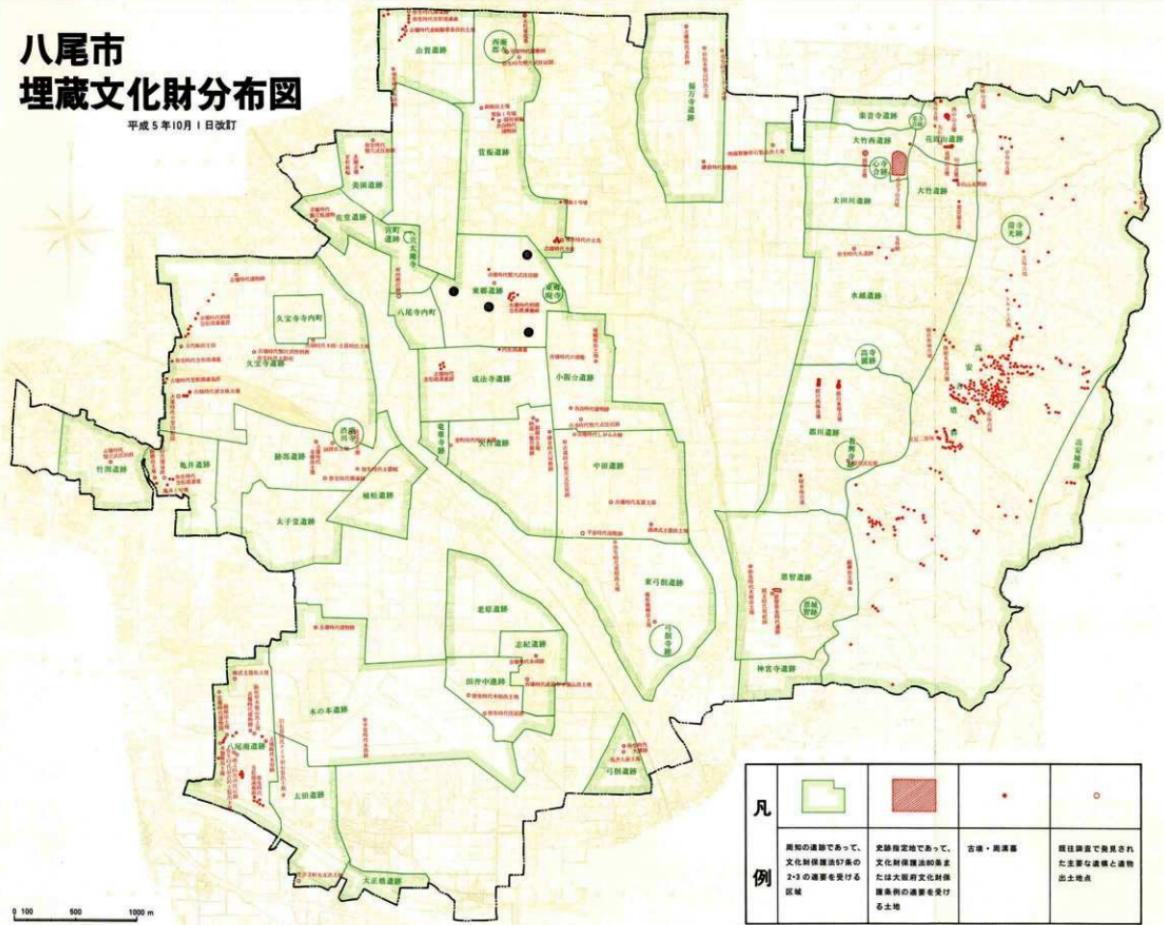
目次

八尾市埋蔵文化財分布図

I 東郷遺跡（第30次調査）	1
II 東郷遺跡（第42次調査）	29
III 東郷遺跡（第45次調査）	43
IV 東郷遺跡（第46次調査）	59
報告書抄録	

八尾市 埋蔵文化財分布図

平成5年10月1日改訂



凡				
例	周知の道路であって、 文化財保護法第7条の 2-3の基準を受ける 区域	史跡指定地であって、 文化財保護法の基準 たゞ大正の文化財保 護新規の基準を受ける 土地	古墳・墓塚	既往調査で発見され た主要な遺構と遺物 出土地点

I 東鄉遺跡第30次調查 (TG89-30)

考 古 文 章

例　　言

1. 本書は八尾市本町7丁目39-1で実施した店舗付共同住宅建設に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する東郷遺跡第30次調査（遺跡略号 TG89-30）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第149号 平成元年2月3日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が田川貞雄氏から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成元年4月17日から平成元年4月27日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約85m²を測る。なお調査には八元聰志、岡田聖一、森本浩一、並川聰也が参加した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物復元－西村（公）・中西・西村（和）、遺物実測－中西・西村（和）・石原、図面レイアウト・トレース－西村（公）・中西・西村（和）・石原、遺物写真撮影－西村（公）が行なった。
1. 本書の執筆および編集は西村（公）が行なった。

本 文 目 次

1.はじめに.....	1
2.調査概要.....	3
1) 調査の方法と経過.....	3
2) 基本層序.....	4
3) 検出遺構と出土遺物.....	7
①平安時代末期から鎌倉時代.....	7
②近世.....	17
4) 出土遺物観察表.....	18
3.まとめ.....	25

I 東郷遺跡第30次調査 (TG89-30)

1. はじめに

東郷遺跡は大阪府八尾市のほぼ中央部に位置しており、現在の行政区画では本町1丁目・7丁目、東本町1丁目～5丁目、北本町2丁目、光町1丁目・2丁目、桜ヶ丘1丁目～4丁目、莊内町1丁目・2丁目一帯の東西約1.1km、南北約0.9kmの範囲にある。

当遺跡の発見の経緯は、東本町2丁目（光明寺裏付近）で昭和46年4月に水道工事が行なわれ、掘削の際に地表下1.5mで墨書き人面土器等が出土し、遺跡が存在していることが確認されたことによる。

この掘削工事以降、近鉄大阪線高架工事や水道工事等で若干の遺物包含層の存在が確認されているが、遺跡の実体は明らかにされていなかった。しかし、近鉄八尾駅が高架工事に伴って現在の位置に移された後、特に昭和50年代後半以降から、近鉄八尾駅前周辺（主に北側）では、ビル建設等の開発に伴う工事が多く行なわれるようになった。この工事に伴う発掘調査を、平成6年12月までに、八尾市教育委員会と当調査研究会によって計48件行なっている（第1表と第1図参照）。また当遺跡内では大阪府教育委員会も数件の調査を行なっている。それらの発掘調査の結果、弥生時代から近代に至る遺構および遺物が検出されており、特に古墳時代前期の集落が近鉄八尾駅前北側一帯に存在していたことが明確になっている等、遺跡の実体が解明されつつある現状である。

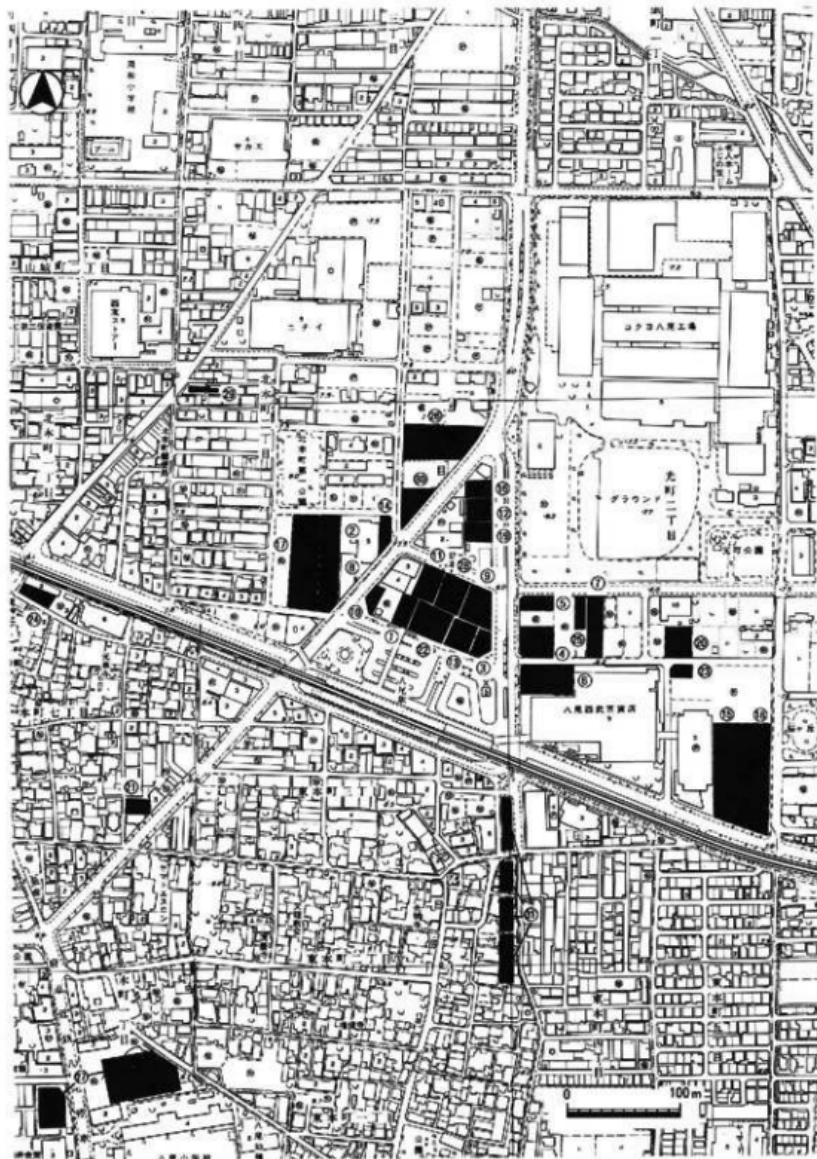
このような情勢下、田川真雄氏から本町7丁目39-1において店舗付共同住宅建設の計画書が八尾市教育委員会文化財課に提供された。

当文化財課では、計画地が東郷遺跡の遺跡範囲内にあることから、計画地内で事前に試掘調査を行なった。調査の結果、鎌倉時代の遺構を検出した。このことから、同文化財課から発掘調査が必要であると判断し、その旨を事業者に通知した。その結果、建設工事により遺構の破壊が予想される部分を対象に発掘調査を実施することが、事業者と同文化財課の両者で合意された。

上記のことにより、当調査研究会へ発掘調査が依頼されたものである。今回の調査地は、近鉄八尾駅の南西側約200mに位置し、行政区画では八尾市本町7丁目39-1にあたる。



写真1 調査状況（西から）



第1図 調査地周辺図

地番番号	地名	区画	調査面積	面積	東	北	西	南	位置	範囲	調査文類	備考
TG89-01	1	288	2560110-0101	158	北郷付近の住宅	板ヶ丘2丁目8-1, 8-9	山側部	市教委	八尾市文化財調査会報告書			
TG89-02	2	286	25600418	9	庄内付近の住宅	板ヶ丘2丁目7-8, -9	山側部	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書1			
① TG89-03	3	286	25600419-0463	64	貯水池	北町1丁目9-2	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書2				
② TG89-04	4	286	25600113-0526	125	貯水池	北町2丁目14-15	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書3				
③ TG89-05	5	286	25600508-0709	195	貯水池	北町1丁目38A	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書4				
TG89-06	6	286	25600721-0958	45	社会施設事務所の空地	板ヶ丘2丁目9他	山側部	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書5			
TG89-07	7	286	25600201-1021	300	庄内付近の住宅	板ヶ丘2丁目	市教委					
④ TG89-08	8	286	25601513-1201	568	貯水池	北町1丁目15B	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書6				
⑤ TG89-09	9	286	25601304-1223	210	貯水池	北町1丁目47	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書7				
⑥ TG89-10	10	286	25602001-2012	621	貯水池	北町2丁目17	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書8				
⑦ TG89-11	11	287	25701304-0610	500	庄内付近の住宅	北町2丁目	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書9				
⑧ TG89-12	12	287	25700706-0807	200	貯水池	北町2丁目13-1, 2, 13-4	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書10				
TG89-13	13	287	25701916-1023	500	庄内付近の住宅	北町2丁目10-3	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書11				
⑨ TG89-14	14	287	25801101-0421	485	古墳	北町1丁目12	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書12				
⑩ TG89-15	15	288	25801613-0633	300	貯水池	北町1丁目36	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書13				
⑪ TG89-16	16	288	25800801-0813	200	貯水池	北町1丁目38-3	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書14				
⑫ TG89-17	17	288	25801344-2115	480	貯水池	北町1丁目47-1他	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書15				
⑬ TG89-18	18	288	25800901-0430	440	店舗付近	北町1丁目19-3	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書16				
⑭ TG89-19	19	289	25900101-0427	207	レバ地蔵	北町2丁目23	山側部	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書17			
⑮ TG89-20	20	289	26001008-061030	1,065	文化施設建物	北町2丁目49他	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書18				
⑯ TG89-21	21	289	26101009-1115	80	施設付近	北町1丁目43-44	内側部	小委員会	八尾市文化財調査研究会報告書19			
TG89-22	22	289	26101510-1207	90	古墳遺跡	北町1丁目38-38	市教委	八尾市文化財調査研究会報告書20				
TG89-23	23	290	26201016-0810	55	庄内付近の住宅	北町1丁目38-38	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書21				
TG89-24	24	290	26200909-0823	300	庄内付近の住宅	北町1丁目19-1	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書22				
⑰ TG89-25	25	290	26201020-0917	900	庄内付近の住宅	北町2丁目140-140	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書23				
TG89-26	26	290	26301116-0129	43	庄内付近の住宅	西町1丁目46-51	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書24				
⑲ TG89-27	27	291	26301203-0146	325	文化施設建設	北町1丁目46	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書25				
⑳ TG89-28	28	291	26401706-0811	96	ビラ地蔵	北町1丁目47	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書26				
TG89-29	29	291	26501000-0233	210	庄内付近の住宅	北町1丁目38-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書27				
⑳ TG89-30	30	291	26501117-0336	85	共同住宅	北町1丁目39-1	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書28				
TG89-31	31	291	26501119-0336	600	庄内付近の住宅	北町1丁目39-1	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書29	今回の調査			
TG89-32	32	291	26601203-0340	1,277	市役所付近の住宅	北町1丁目38-1	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書30				
TG89-33	33	291	26601205-0347	120	庄内付近の住宅	北町1丁目39	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書31				
TG89-34	34	291	26700110-0350	400	庄内付近の住宅	北町1丁目39	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書32				
TG89-35	35	291	26801203-0350	200	庄内付近の住宅	北町1丁目39	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書33				
㉙ TG89-36	36	291	26801208-0353	363	共同住宅	北町1丁目39-2-墓地他	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書34 年度事業報告				
㉚ TG89-37	37	291	26901204-0356	1,065	庄内付近の住宅	北町1丁目39-1-2, 41-44	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書35 年度事業報告				
TG89-38	38	291	26901211-0356	9	防水木棟	北町1丁目39-4	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書36				
TG89-39	39	291	26901216-0357	50	公会堂木構造付近	北町1丁目39-4	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書37				
㉛ TG89-40	40	291	26901216-0357	363	共同住宅	北町1丁目39-4-1-墓地他	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書38				
㉜ TG89-41	41	295	26901233-0356	130	共同住宅	北町2丁目40-1-4-5, 43	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書39 年度事業報告				
TG89-42	42	295	26901235-0357	208	共同住宅	北町2丁目35-36-47-18	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書40 年度事業報告				
㉞ TG89-43	43	295	26901235-0357	368	共同住宅	北町1丁目38-40-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書41 年度事業報告				
TG89-44	44	295	26901240-0358	370	木下氏等建物	北町1丁目38-40-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書42 年度事業報告				
TG89-45	45	295	26901240-0358	759	共同住宅	北町1丁目38-40-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書43 年度事業報告				
TG89-46	46	295	26901240-0358	1,200	庄内付近の住宅	北町1丁目38-40-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書44 年度事業報告				
TG89-47	47	295	26901240-0358	760	庄内付近の住宅	北町1丁目38-40-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書45 年度事業報告				
TG89-48	48	295	26901244-1214	850	共同住宅	北町1丁目38-40-41	研究会	八尾市文化財調査研究会報告書46 年度事業報告				

○番号は、第1回西側地図に位置を記載した

市教委・八尾市教育委員会
研究会・財团法人 八尾市文化財調査研究会

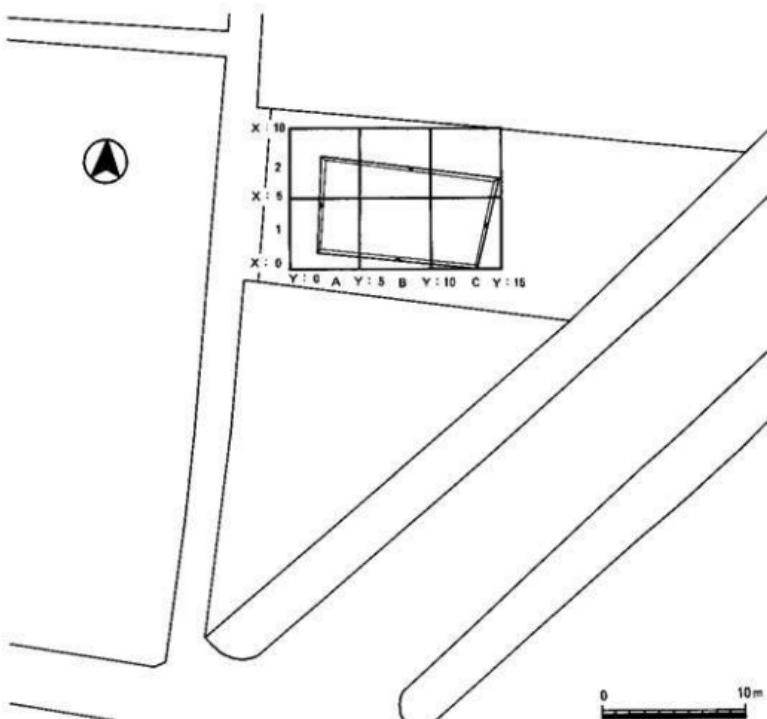
第1表 東郷遺跡发掘調査一覧表

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

店舗付共同住宅建設予定地に東西13.2m×南北6.4mの調査区を設定した。調査に際しては、現地表下0.8m～1.0mまでの七層を機械掘削し、以下の各層は人力による掘削を行ない、遺構および遺物の検出に努めた。調査地には、調査地の南西側に基準点を置き、この基準点から東へ15m、北へ10mにわたって地区割を設定した。一区画の単位は5m四方で、基準点から南北方向は算用数字（西から1～2）、東西方向はアルファベット（南からA～C）で示した。地区割の表示は、一区画の北東隅に交点を用い、1 A～2 C区とした。

調査の結果、現地表下1.2m（標高T.P.+7.7m～T.P.+7.8m）に存在する第3層上面で平安時代末期から鎌倉時代の井戸2基（SE-1・SE-2）、土坑4基（SK-1～SK-4）、溝8条（SD-1～SD-8）、小穴13個（SP-1～SP-13）と、現地表下0.9m～1.0m（T.P.+7.8m～T.P.+7.9m）に存在する第2層上面で近世の小穴3個（SP-14～SP-16）を検出した。なお第2層上面から切り込んでいる造構については、第2層の層序が比較的薄く結果的には第3層上面で検出するかたちとなった。



第2図 地区割図

2) 基本層序

第0層 盛土。層厚0.55m。上面の標高はT.P.+8.8mである。

第1層 茶褐色細砂混粘土。層厚0.45m。上面の標高はT.P.+8.25mである。

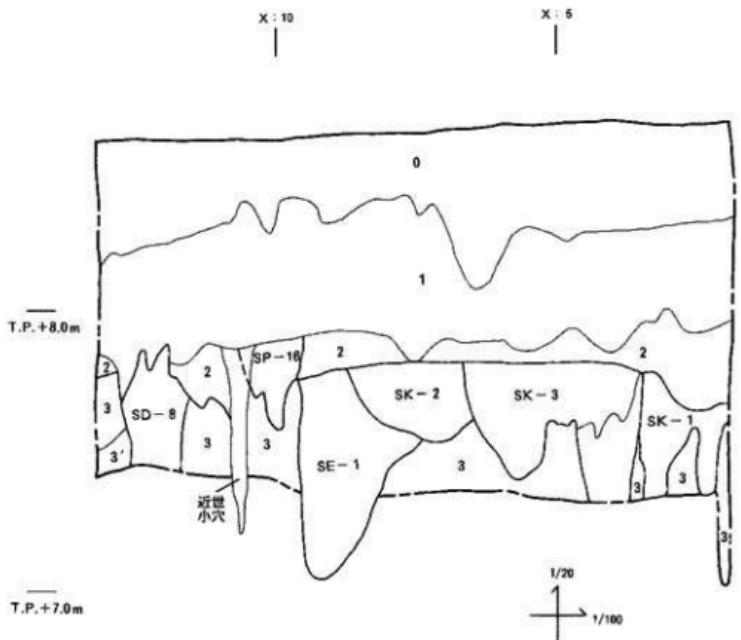
第2層 暗灰色細砂混粘土。層厚0.1m。上面の標高はT.P.+7.8m～T.P.+7.9mである。

上面は近世の遺構検出面である。層内には中世から近世の遺物を含んでいる。

第3層 黄褐色シルト混粘質土。層厚0.6m以上。上面の標高はT.P.+7.7m～T.P.+7.8mである。

上面は平安時代末期から鎌倉時代の遺構検出面である。この層は、河川内堆積土と思われる。

3' 黄茶色シルト。層厚0.1m以上。3層と同様の河川内堆積土と思われる。平安時代以前は河川であったと推定される。



基本層序

第0層 盛土。層厚0.55m。上面の標高はT.P.+8.8mである。

第1層 茶褐色細砂混粘土。層厚0.45m。上面の標高はT.P.+8.25mである。

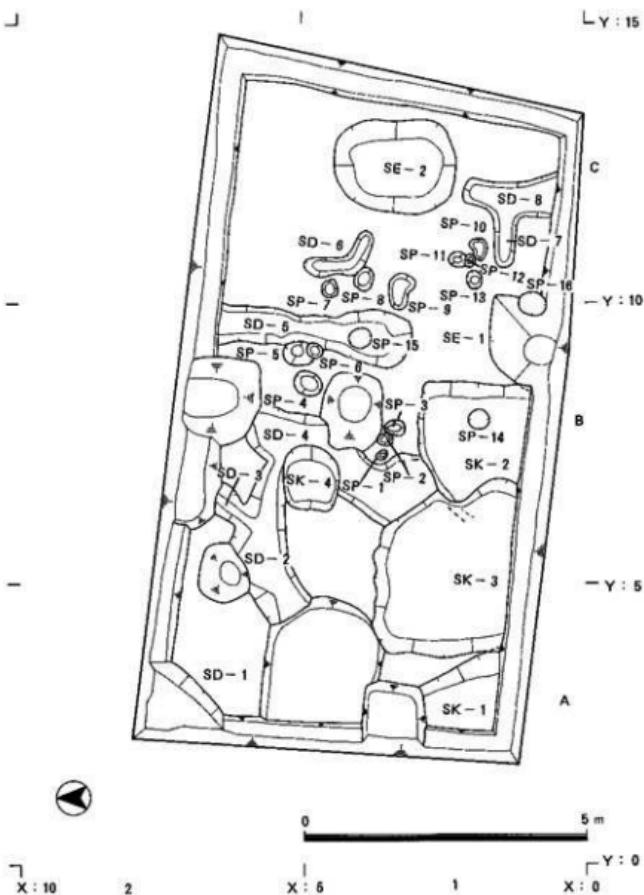
第2層 隆灰色細砂混粘土。層厚0.1m。上面の標高はT.P.+7.8m～T.P.+7.9mである。

上面は近世の遺構検出面である。層内には中世から近世の遺物を含んでいる。

第3層 黄褐色シルト混粘質土。層厚0.6m以上。上面の標高はT.P.+7.7m～T.P.+7.8mである。

上面は平安時代末期から鎌倉時代の遺構検出面である。この層は、河川内堆積土と思われる。

3' 黄茶色シルト。層厚0.1m以上。3層と同様の河川内堆積土と思われる。平安時代以前は河川であったと推定される。



第4図 掘出遺構平面図

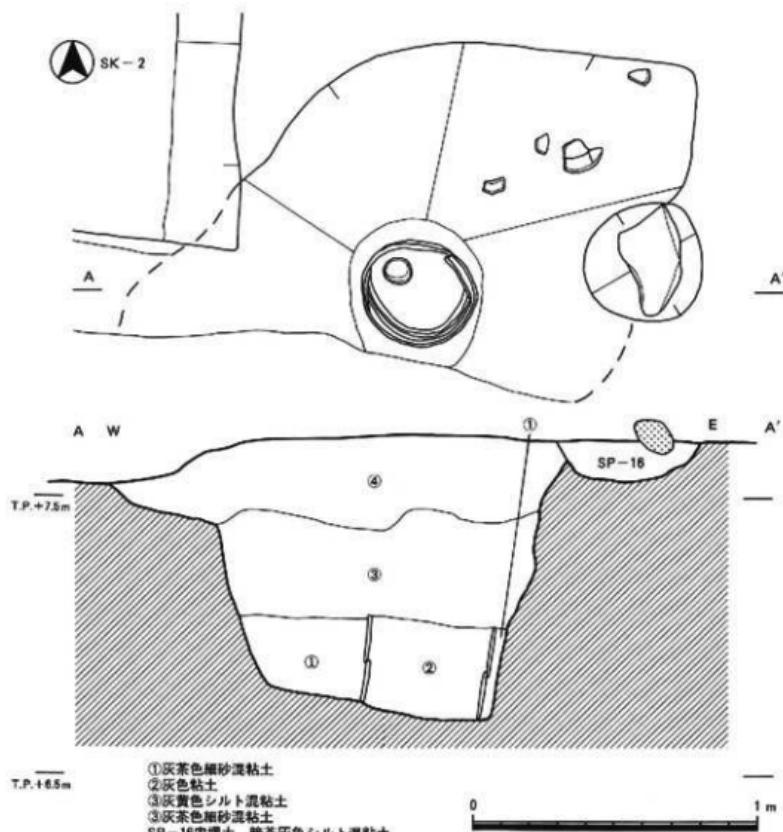
3) 検出遺構と出土遺物

①平安時代末期から鎌倉時代

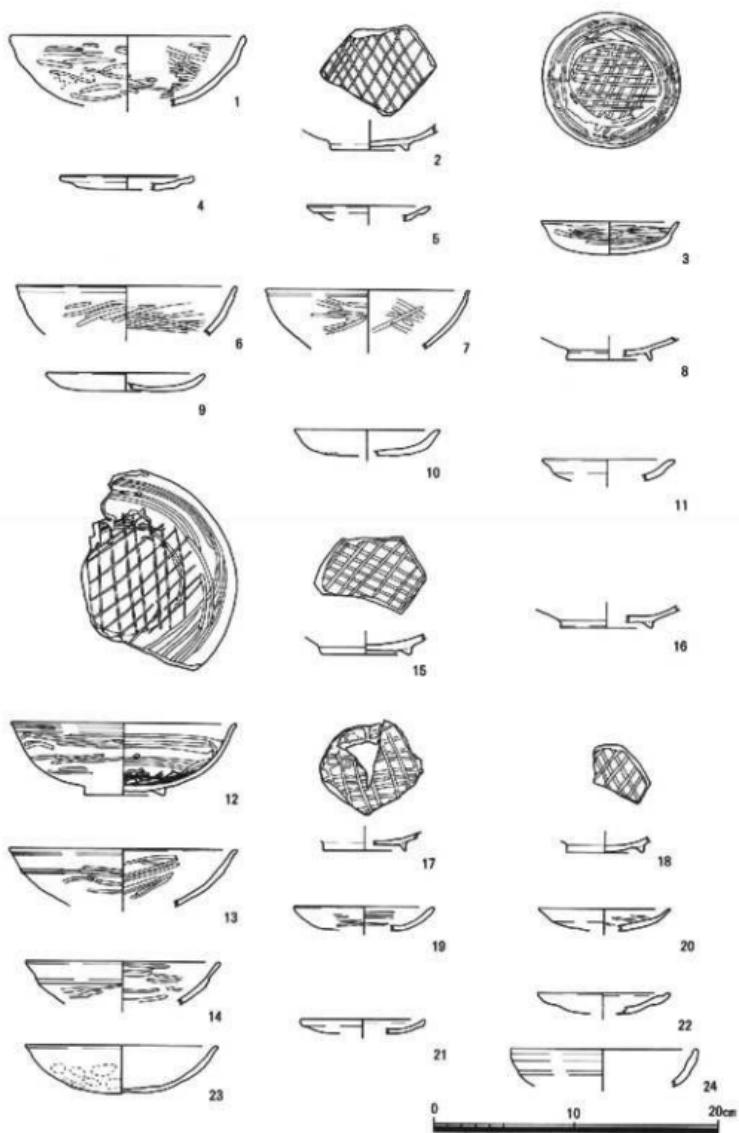
井戸 (SE)

SE-1

1B・C区で検出した。検出した平面の形状は、燭丸の方形を呈する。東西幅1.7m、南北幅は遺構の南側が調査区外に至るため不明である。深さ1.0mを測る。井戸側は曲物2段で構成されている。曲物は最下段が径0.42m、高さ0.18m、2段目が径0.44m、高さ0.18mを測る。井戸の掘形の内部堆積土は①灰茶色細砂混粘土で、現存していた井戸側内の堆積土は②灰色粘



第5図 SE-1 平断面図

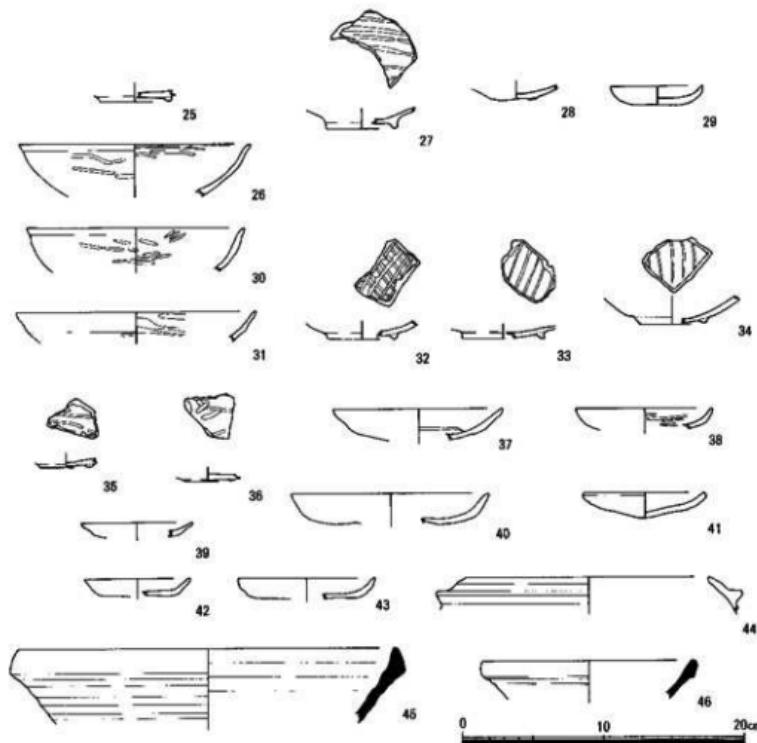


第6図 SE-1 (1~24) 出土遺物実測図

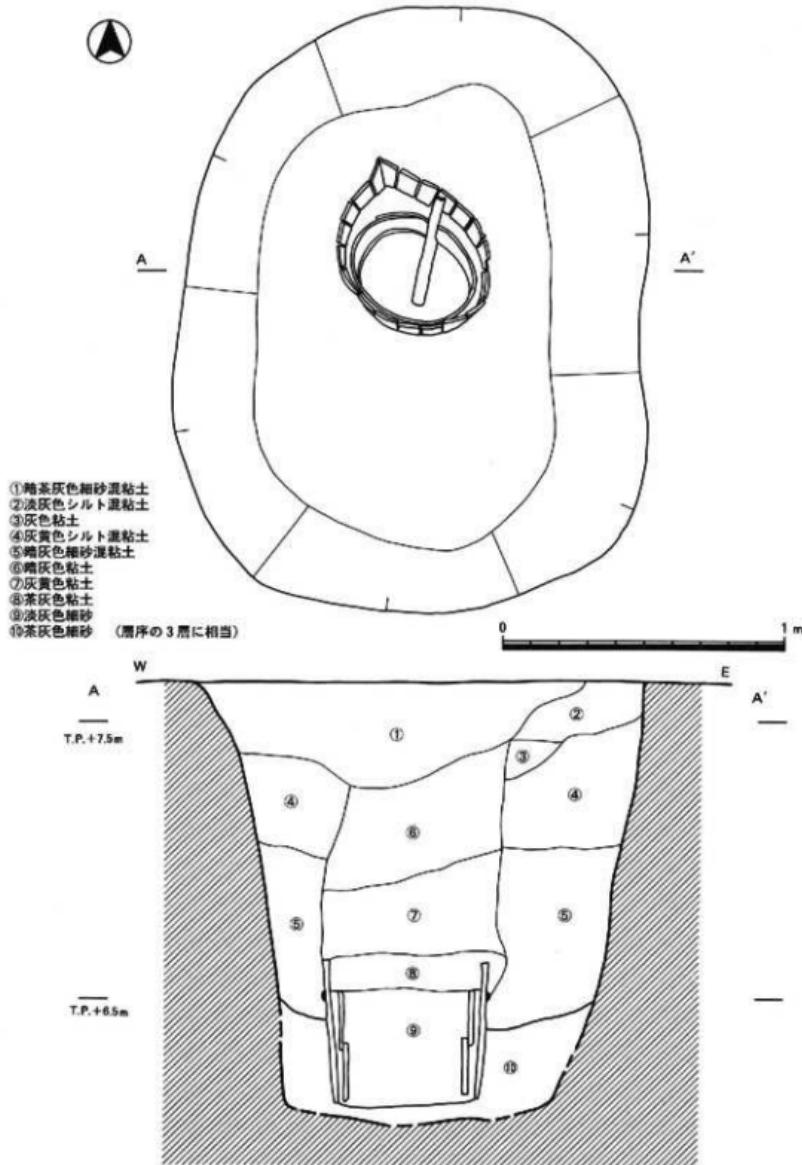
土で、井戸内の堆積土は③灰黄色シルト混粘土④灰茶色細砂混粘土である。②層内からは瓦器の楕(1・2)・小皿(3)、土師器の小皿(4・5)が、①層内からは瓦器の楕(6~8)、土師器の小皿(9~11)、④層内からは瓦器の楕(12~18)・小皿(19・20)、土師器の小皿(21・22)、土師器の中皿(23・24)が出土している。

SE-2

1C区で検出した。南北方向に長い椭円形を呈する。東西幅1.8m、南北幅2.1m、深さ1.55mを測る。井戸側は曲物2段と木枠の桶で構成されている。曲物は最下段が径0.44m、高さ0.2m、2段目が径0.47m、高さ0.2mを測り、桶は径0.58m、高さ0.52mを測る。井戸の掘り形内は1:から③灰色粘土④灰黄色シルト混粘土⑤暗灰色細砂混粘土で、井戸側内の埋土は⑥暗灰色粘土⑦灰黄色粘土⑧茶灰色粘土⑨淡灰色細砂である。井戸の埋め上は⑩暗茶灰色細砂混粘土



第7図 SE-2 (25~46) 出土遺物実測図



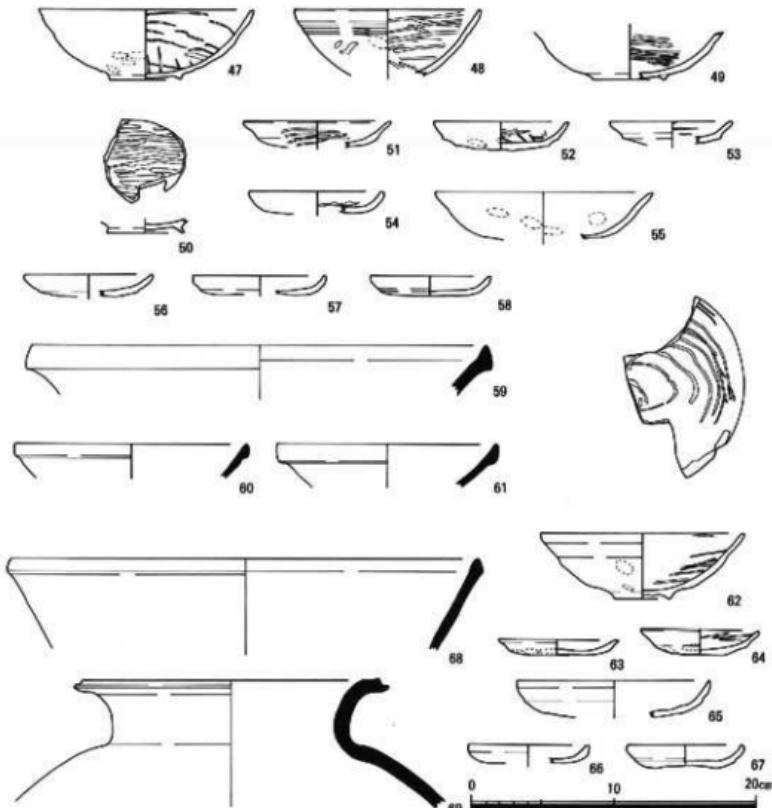
第8図 SE-2 平断面図

②淡灰色シルト混粘土である。⑨層内からは瓦器の楕(25)が、⑩層内からは瓦器の楕(26~28)、土師器の小皿(29)が、⑪層内からは瓦器の楕(30~36)、瓦器の小皿(37~39)、土師器の中皿(40)、土師器の小皿(41~43)、瓦質の羽釜(44)、須恵器の鉢(45)、白磁の楕(46)が出土している。

土坑(SK)

SK-1

1 A区で検出した。検出した平面の形状および幅は、遺構の南と西側が調査区外に至るため



第9図 SK-1 (47~61) SK-2 (62~69) 出土遺物実測図

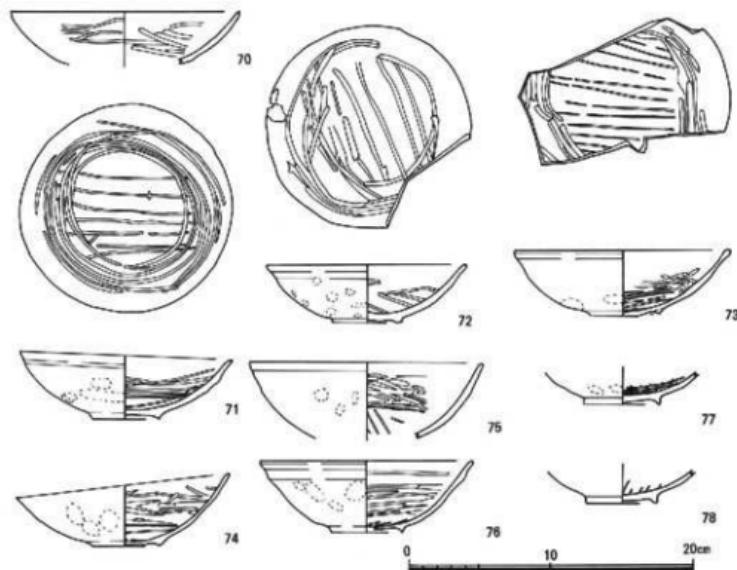
不明である。深さ0.2m、内部堆積土は暗茶灰色細砂混粘土である。土坑内からは瓦器の椀(47~50)・小皿(51~54)、土師器の坏(55)、土師器の中皿(56~58)、須恵器の鉢(59)、白磁の椀(60・61)が出土している。

SK - 2

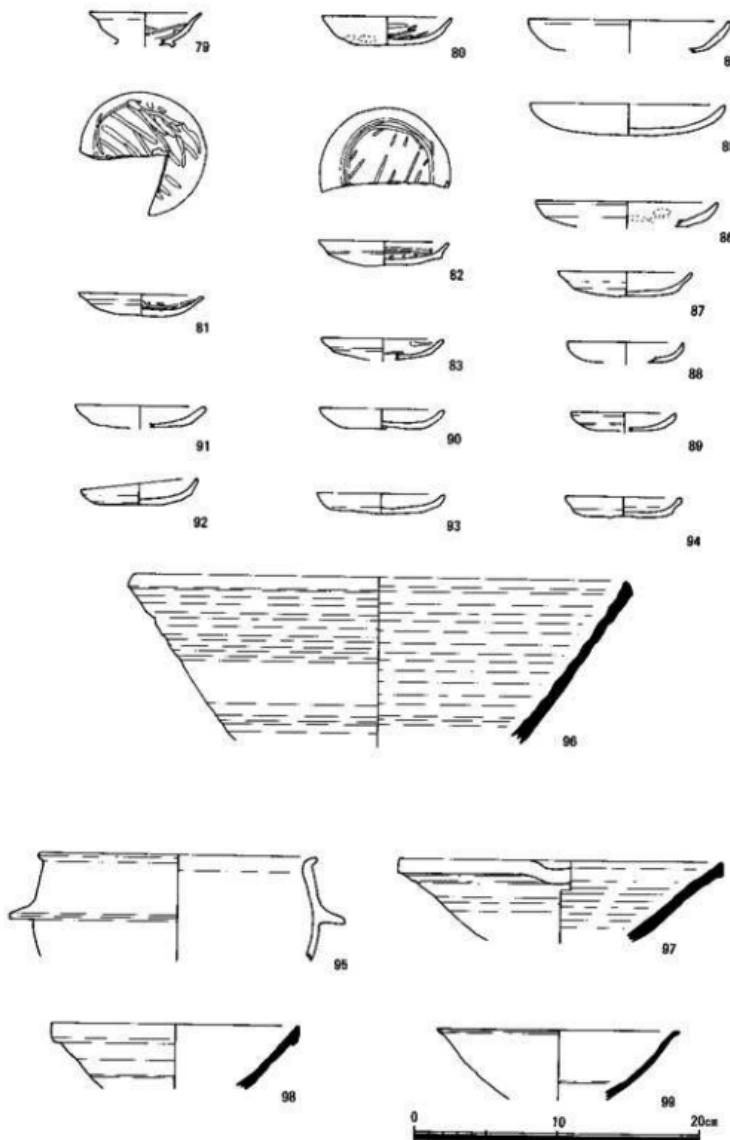
1B区で検出した。検出した平面の形状は半円形を呈する。東西幅1.7m、南北幅は遺構の南側が調査区外に至るため不明である。深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から茶褐色シルト混粘土、灰茶色シルト混粘土である。土坑内からは瓦器の椀(62)・小皿(63・64)、土師器の中皿(65)・小皿(66・67)、須恵器の鉢(68)・甕(69)が出土している。

SK - 3

1A・B区で検出した。検出した平面の形状は半円形を呈する。東西幅2.8mで、南北幅は遺構の南側が調査区外に至るため不明である。深さ0.3mを測る。内部堆積土は茶褐色細砂混粘土、灰茶色粘土、灰黄色シルト混粘土、茶黄色シルト混粘土である。土坑内からは瓦器の椀(70~78)・小皿(79~83)、土師器の中皿(84~86)・小皿(87~94)・羽釜(95)、須恵器の鉢(96・97)、白磁の椀(98・99)が出土している。



第10図 SK-3 (70~78) 出土遺物実測図



第11図 SK-3 (79~99) 出土遺物実測図

SK-4

1・2 B区で検出した。検出した平面の形状は東西方向に長い楕円形を呈する。東西幅1.2mで、南北幅1.0m、深さ0.4mを測る。内部堆積土は上から茶褐色シルト混粘土、暗灰色細砂混粘土、灰色粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

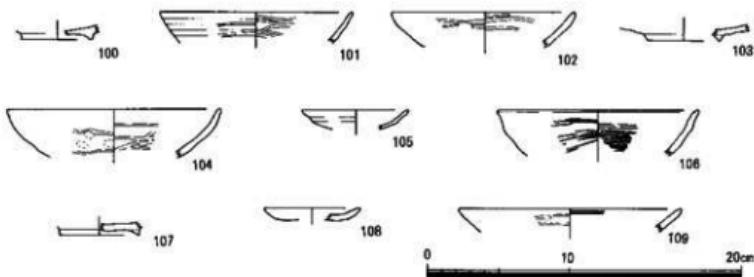
小穴 (SP)

SP-1 ~ SP-13

1・2 B・Cで検出した。検出した平面の形状は楕円形のものと円形のものがある。SP-1内からは瓦器の椀 (100)、SP-2内からは瓦器の椀 (101)、SP-3内からは瓦器の椀 (102・103)、SP-5内からは瓦器の椀 (104)、土師器の小皿 (105)、SP-6内からは瓦器の椀 (106・107)、土師器の小皿 (108)、SP-10内からは瓦器の椀 (109) が出土している。

遺構	地区	形 状	堆 積 土	長 広	短 径	深 さ	出 土 遺 物	
SP-1	1 B	南北方向に長い楕円形	暗灰色細砂混粘土	0.2	0.16	0.06	瓦器	
SP-2	1 B	南北方向に長い楕円形	茶灰色細砂混粘土	0.3	0.2	0.1	瓦器・土師器	
SP-3	1 B	南北方向に長い楕円形	暗灰色細砂混粘土	0.4	0.3	0.4	瓦器・土師器	
SP-4	1・2 B	円 形	暗灰色細砂混粘土			0.4	0.14	瓦器
SP-5	1・2 B	南北方向に長い楕円形	暗灰色細砂混粘土	0.5	0.42	0.18	瓦器・土師器	
SP-6	1 B	円 形	暗灰色細砂混粘土			0.2	0.1	瓦器・土師器
SP-7	1 C	円 形	暗灰色細砂混粘土			0.3	0.14	瓦器・土師器
SP-8	1 C	東西方向に長い楕円形	暗灰色細砂混粘土	0.4	0.3	0.14	なし	
SP-9	1 B・C	東西方向に長い楕円形	暗灰色細砂混粘土	0.6	0.32	0.15	なし	
SP-10	1 C	東西方向に長い楕円形	暗灰色細砂混粘土	0.4	0.28	0.25	瓦器・土師器	
SP-11	1 C	円 形	暗灰色細砂混粘土			0.2	0.25	瓦器・土師器
SP-12	1 C	円 形	暗灰色細砂混粘土			0.2	0.15	なし
SP-13	1 C	円 形	暗灰色細砂混粘土・灰色シルト混粘土			0.3	0.42	瓦器・土師器

第2表 第3層上面検出小穴 (SP) 一覧表 [法量cm]



第12図 SP-1 (100) SP-2 (101) SP-3 (102・103) SP-5 (104・105)
SP-6 (106~108) SP-10 (109) 出土遺物実測図

溝 (SD)

SD-1

2 A区で検出した。南西-北東に伸びる溝で、検出長1.5m、深さ1.5mを測る。東肩のみを検出したため、溝の幅は不明である。内部堆積土は上から茶色シルト混粘土、暗灰黄色シルト混粘土、茶色シルトである。溝内からは瓦器の小皿 (110) および土師器の小皿 (111) が出土している。

SD-2

1・2 A・B区で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD-3・SD-4と合流している。検出長3.0m、幅0.9m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。溝内からは瓦器の椀 (112・113) が出土している。

SD-3

2 B区で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-2・SD-4と合流している。検出長0.5m、幅0.36m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は茶褐色シルト混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-4

1・2 B区で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD-2・SD-3と合流している。検出長3.0m、幅0.6~1.35m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は茶褐色シルト混粘土である。溝内からは瓦器の椀 (114~116)・小皿 (117) および土師器の中皿 (118)・小皿 (119~122) が出土している。

SD-5

1・2 B区で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長3.4m、幅0.56m、深さ0.14mを測る。内部堆積土は茶褐色シルト混粘土である。溝内からは瓦器の椀 (123)・小皿 (124) および土

師器の中皿（125・126）・小皿（127）が出土している。

SD - 6

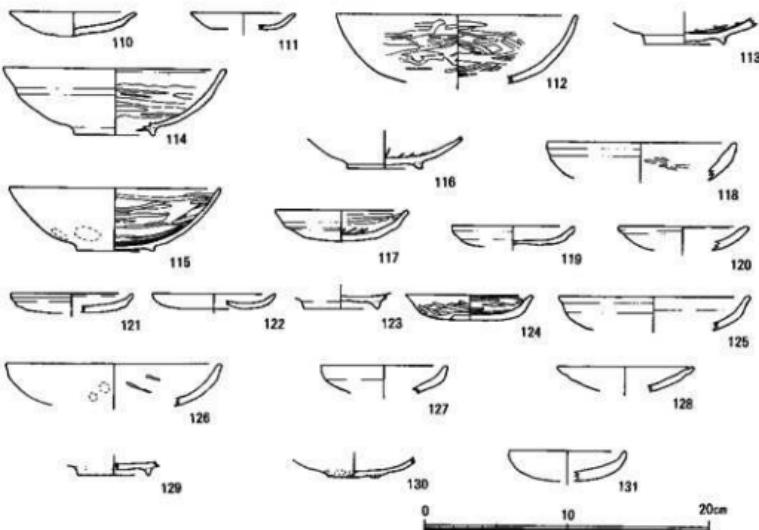
1 C区で検出した。南北方向に伸びる溝で、検山長1.3m、幅0.3m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は淡茶色シルト混粘土である。溝内からは土師器の小皿（128）が出土している。

SD - 7

1 C区で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD - 8 と合流している。検出長0.9m、幅0.36m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は茶褐色シルト混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD - 8

1 C区で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD - 7 と合流している。検出長1.6m、幅0.62m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は茶褐色シルト混粘土である。溝内からは瓦器の楕（129・130）・土師器の小皿（131）が出土している。



第13図 SD - 1 (110・111) SD - 2 (112・113) SD - 4 (114~122) SD - 5 (123~127)
SD - 6 (128) SD - 8 (129~131) 出土遺物実測図

②近世

小穴 (SP)

SP-14～SP-16

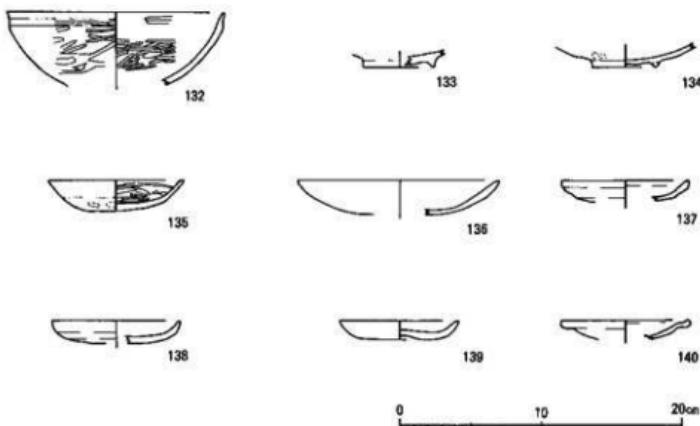
1B・C区で検出した。検出した平面の形状は円形を呈する。小穴内からの遺物の出土はなかった。小穴内の底には、根石が存在していた。

遺構	地区	形 状	堆 槽 上	長径	短径	径	深さ	出土遺物
SP-14	1B	円 形	暗茶灰色シルト 泥粘土			0.35	0.1	なし
SP-15	1B	円 形	暗茶灰色シルト 泥粘土			0.4	0.15	なし
SP-16	1B・C	円 形	暗茶灰色シルト 泥粘土			0.4	0.14	なし

第3表 第2層上面検出小穴 (SP) 一覧表 [法量cm]

遺構に伴わない出土遺物

2層包含層からは瓦器の椀 (132～134)、瓦器の小皿 (135)、土師器の中皿 (136)、土師器の小皿 (137～140) が出土している。



第14図 2層包含層 (132～140) 出土遺物実測図

4) 出土遺物観察表

報告番号 団固番号	出土遺物	理想 寸法	口径 器高 高さ 高さ	形態・調整	色調	胎土	焼成	備考
1	SE-1 ②層 瓦	瓦器	16.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	黒色	粗	良好	
2	SE-1 ②層 瓦	瓦器	9.6 8.6 8.4	体部内外面ヘラミガキ。見込みに格子の暗文 を施す。外側ナデ。	黒色	粗	良好	
3	SK-1 ②層 瓦器	瓦器	9.6 2.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。見込みに格子の暗文を施す。	黒色	粗	良好	
4	SK-1 ②層 土器	小皿	9.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	滑	良好	
		小皿						
5	SE-1 ②層 瓦器	瓦器	8.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡黄色	滑	良好	
		小皿						
6	SE-1 ①層 瓦	瓦器	15.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	暗灰色	0.5 mm から 1 mm 程度の 砂粒を含む。	良好	
		陶						
7	SE-1 ①層 瓦器	瓦器	14.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	滑	良好	
		陶						
8	SE-1 ①層 瓦器	瓦器	6.0 0.7	体部内外面ヘラミガキ。見込みに格子の暗文 を施す。外側ナデ。	暗灰色	滑	良好	
		陶						
9	SE-1 ①層 土器	土器	11.0 1.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		小皿						
10	SE-1 ①層 土器	土器	10.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	明褐色	粗	良好	
		小皿						
11	SE-1 ①層 土器	土器	9.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にじい 黄褐色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		小皿						
12	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	15.8 5.2 5.5 0.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。見込みに格子の暗文を施す。	灰色	1 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
二		陶						
13	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	16.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	滑	良好	
		陶						
14	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	滑	良好	
		陶						
15	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	6.4 0.8	体部内外面ヘラミガキ。見込みに格子の暗文 を施す。外側ナデ。	黒色	粗	良好	
		陶						
16	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	6.4 0.5	体部内外面ヘラミガキ。外側ナデ。	暗灰色	1 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		陶						
17	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	5.8 0.7	体部内外面ヘラミガキ。見込みに格子の暗文 を施す。外側ナデ。	灰色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		陶						
18	SE-1 ④層 瓦器	瓦器	5.4 0.4	体部内外面ヨコナデ。見込みに格子の暗文 を施す。外側ナデ。	灰色	滑	良好	
		陶						
19	SK-1 ④層 瓦器	瓦器	9.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	滑	良好	
		小皿						
20	SK-1 ④層 瓦器	瓦器	9.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガ キ。外側ナデ。	灰色	滑	良好	
		小皿						

地點番号	出土遺物	種類 整理	上部 表面 高さ	形態・表面		色調	胎土	焼成	備考
				表面	高さ				
21	SE-1 ④層	土器底	8.6	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		におい 黄褐色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
22	SE-1 ④層	小皿	9.0	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		浅黄色	1 mmから2 mm程度の砂 粒を含む。	良好	
23	SE-1 ④層	「鉢器」	13.4	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		におい 褐色	1 mmから2 mm程度の砂 粒を含む。	良好	
24	SH-1 ④層	土器底	13.0	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		明赤褐色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
25	SE-2 ⑤層	瓦器		体部内面ヘラミガキ、外面ナゲ。		灰色	粗	良好	
		碗	5.6 0.4						
26	SE-2 ⑤層	瓦器	16.6	口縁部内外側ヨコナギ。体部内外面ヘラミ ガキ。		暗灰色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		碗	5.0 0.5						
27	SE-2 ⑤層	丸器		体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の暗文 を施す。外面ナゲ。		暗灰色	粗	良好	
		碗	3.5 0.2						
28	SH-2 ⑤層	瓦器		体部内面ヘラミガキ、外面ナゲ。		灰色	1 mm程度 の砂粒を含む。	良好	
		碗							
29	SE-2 ⑤層	土器底	6.6	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		浅黄色	粗	良好	
		小皿							
30	SE-2 ①層	瓦器	15.6	口縁部外側ヨコナギ。体部内外面ヘラミ ガキ。		暗灰色	粗	良好	
		碗							
31	SH-2 ①層	瓦器	16.9	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ヘラミ ガキ。		灰色	粗	良好	
		碗							
32	SH-2 ①層	瓦器		体部内面ヘラミガキ、見込みに格子の暗文 を施す。外面ナゲ。		暗灰色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		碗	5.0 0.4						
33	SE-2 ①層	瓦器		体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の暗文 を施す。外面ナゲ。		灰色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		碗	5.8 0.4						
34	SE-2 ①層	瓦器		体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の暗文 を施す。外面ナゲ。		灰色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		碗	4.6 0.5						
35	SE-2 ①層	瓦器		体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の暗文 を施す。外面ナゲ。		灰色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
		碗	4.0 0.2						
36	SE-2 ①層	丸器		体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の暗文 を施す。外面ナゲ。		灰色	粗	良好	
		碗	3.2 0.1						
37	SH-2 ①層	瓦器	12.2	口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ヘラミガ キ、外面ナゲ。		灰色	粗	良好	
		小皿							
38	SH-2 ①層	瓦器	9.8	口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ヘラミガ キ、外面ナゲ。		灰色	粗	良好	
		小皿							
39	SH-2 ①層	瓦器	8.0	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		灰色	粗	良好	
		小皿							
40	SH-2 ①層	土器底	14.2	口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面ナゲ。		におい 黄褐色	粗	良好	
		中皿							

製品番号 採取番号	出上場機	器種 名稱	11種 別名 高台高 高台低	形態・調整	色調	粒土	焼成	備考
41	SK-2 ①層	土器器	8.6 1.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	0.5 mm程度 の砂粒を含む。	良好	
42	SD-2 ①層	土器器	7.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
43	SD-2 ①層	土器器	9.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	0.5 mm程度 の砂粒を含む。	良好	
44	SE-2 ①層	瓦質	17.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	0.5 mmから 1 mm程度の 砂粒を含む。	良好	
45	SK-2 ①層	瓦器器	27.0	口縁部および体部内外面回転ナデ。	灰色	0.5 mmから 1 mm程度の 砂粒を含む。	良好	
46	SE-2 ①層	白磁	15.2	口縁部は玉縁で、ヨコナデを施す。	灰白色	粗	良好	
二		陶						
47	SK-1	瓦器	15.2 5.0 0.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。 外面ナデ。	灰色	粗	良好	
二		陶						
48	SK-1	瓦器	13.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	1 mm程度の 砂粒を含む。	良好	
		陶						
49	SK-1	瓦器	6.0 0.4	体部内面ヘラミガキ、外側ナデ。	灰色	0.5 mm程度 の砂粒を含む。	良好	
		陶						
50	SK-1	瓦器	5.4 0.4	体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の暗文 を施す。外側ナデ。	灰色	粗	良好	
		陶						
51	SK-1	瓦器	10.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	0.5 mm程度 の砂粒を含む。	良好	
		陶						
52	SK-1	瓦器	9.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガ キ、外側ナデ。	灰色	粗	良好	
		陶						
53	SK-1	瓦器	8.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガ キ、外側ナデ。	暗灰色	粗	良好	
		陶						
54	SK-1	瓦器	9.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガ キ、外側ナデ。	灰色	粗	良好	
		陶						
55	SK-1	土器器	15.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
		陶						
56	SK-1	土器器	9.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
		陶						
57	SK-1	土器器	9.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	褐色	粗	良好	
		陶						
58	SK-1	土器器	8.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
		陶						
59	SK-1	瓦器器	32.0	口縁部および体部内外面回転ナデ。	灰色	粗	良好	
		陶						
60	SK-1	白磁	16.4	口縁部は下縁で、ヨコナデを施す。	灰白色	0.5 mm程度 の砂粒を含む。	良好	
		陶						

報告番号 出発番号	出土遺物	種類 器種	口径 内面 外面 高さ 直径	形態・調査		色調	胎土	焼成	備考
				口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	口縁部は玉解で、ヨコナデを施す。				
61	SK-1	山瓶	15.6			灰白色	0.5mm程度の砂粒を含む。	良好	
二		瓶							
62	SK-2	瓦器	14.2			灰色	粗	良好	
一		瓶							
63	SK-2	瓦器	8.2 1.1		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	オリーブ 灰色	0.5mmから 1mm程度の 砂粒を含む。	良好	
64	SK-2	瓦器	8.2 1.9		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	0.5mmから 1mm程度の 砂粒を含む。	良好	
		小皿							
65	SK-2	土器器	13.6		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
		中皿							
66	SK-2	土器器	8.6		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
		小皿							
67	SK-2	土器器	8.2		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
		小皿							
68	SK-2	須恵器	33.2		口縁部および体部内外面回転ナデ。	灰色	粗	良好	
		体							
69	SK-2	須恵器	22.4		口縁部および体部内外面回転ナデ。	灰白色	粗	良好	
二		瓶							
70	SK-3	丸器	16.0		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	0.5mm程度の 砂粒を含む。	良好	
		瓶							
71	SK-3	瓦器	14.9 4.8 4.7 0.4		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の横文を施す。	灰色	0.5mmから 1mm程度の 砂粒を含む。	良好	
二		瓶							
72	SK-3	瓦器	14.2 4.1 5.2 0.5		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の横文を施す。	暗灰色	粗	良好	
一		瓶							
73	SK-3	瓦器	15.0 4.7 4.4 0.5		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の横文を施す。	灰色	粗	良好	
		瓶							
74	SK-3	瓦器	15.2 5.1 4.6 0.5		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好	
三		瓶							
75	SK-3	瓦器	16.4		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好	
		瓶							
76	SK-3	丸器	15.6 5.0 0.4 0.8		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。	灰色	1mm程度の 砂粒を含む。	良好	
二		瓶							
77	SK-3	瓦器	5.2 0.5		体部内面ヘラミガキ、見込みに格子の横文を施す。外面ナデ。	暗灰色	粗	良好	
		瓶							
78	SK-3	丸器	4.8		体部内面ヘラミガキ、見込みに平行の横文を施す。外面ナデ。	暗灰色	粗	良好	
		瓶							
79	SK-3	瓦器	8.0 2.4 4.0 0.4		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	粗	良好	
二		小皿							
80	SK-3	瓦器	9.0 1.9		口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	暗灰色	粗	良好	
二		小皿							

報告番号 調査番号	出土遺構	埋蔵 位置 深度 高さ 幅員	形態・面積	色調	粒土	焼成	備考	
81	SK-3	瓦器 小皿	8.7 1.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	0.5mから 2mm程度の 砂粒を含む。	良好	
82	SK-3	瓦器 小皿	9.1 1.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	1mmから3 mm程度の 砂粒を含む。	良好	
83	SK-3	瓦器 小皿	8.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	0.5mから1. 5mm程度の 砂粒を含む。	良好	
84	SK-3	土器器 中皿	14.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
85	SK-3	土器器 中皿	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	浅黄色	0.5mm程度 の砂粒を含む。	良好	
86	SK-3	土器器 小皿	12.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5mmから 1mm程度の 砂粒を含む。	良好	
87	SK-3	土器器 小皿	9.4 1.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5mmから 2mm程度の 砂粒を含む。	良好	
88	SK-3	土器器 小皿	8.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰褐色	粗	良好	
89	SK-3	土器器 小皿	7.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5mm程度 の砂粒を含む。	良好	
90	SK-3	土器器 小皿	8.8 1.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	浅黄色	粗	良好	
91	SK-3	土器器 小皿	9.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
92	SK-3	土器器 小皿	8.1 2.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5mmから 1mm程度の 砂粒を含む。	良好	
93	SK-3	土器器 小皿	8.9 1.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
94	SK-3	土器器 小皿	8.3 1.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
95	SK-3	土器器 羽筆	19.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 筒状器ヨコナデ。	に赤い 黄褐色	1mmから3 mm程度の 砂粒を含む。	良好	
96	SK-3	須恵器 鉢	34.4	口縁部および体部内外面凹凸ナデ。	灰白色	粗	良好	
97	SK-3	須恵器 片口	22.6	口縁部および体部内外面凹凸ナデ。	暗青灰色	1mmから3 mm程度の 砂粒を含む。	良好	
98	SK-3	白磁 桶	17.2	口縁部は玉緑で、ヨコナデを施す。	灰白色	0.5mm程度 の砂粒を含む。	良好	
99	SK-3	白磁 桶	17.0	口縁部を外反させ、底部を平らにしている。 見込み近くに一条の沈線を施す。	灰白色	0.5mm程度 の砂粒を含む。	良好	
100	SK-1	瓦器 桶	5.0 0.4	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	暗灰色	粗	良好	

報告番号 採取番号	山土造構	種類 岩種	口縁部 高さ cm	口縁部内外面 ヨコナデ	形態・調整		色 製	粒 士	焼成	備考
					形態	調整				
101	SP-2	瓦器	13.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	灰色	0.5mm程度の砂粒を含む。	良好			
		瓶								
102	SP-3	瓦器	12.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好			
		瓶								
103	SP-3	瓦器	5.1	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	粗	良好			
		瓶	0.5							
104	SP-5	瓦器	14.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	灰色	粗	良好			
		瓶								
105	SP-5	土師器	7.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	褐色	0.5mm程度の砂粒を含む。	良好			
		小皿								
106	SP-6	瓦器	14.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	灰色	0.5mmから1.5mm程度の砂粒を含む。	良好			
		瓶								
107	SP-6	瓦器	5.6	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	粗	良好			
		瓶	0.4							
108	SP-6	土師器	6.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	浅黄色	粗	良好			
		小皿								
109	SP-10	瓦器	15.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好			
		瓶								
110	SD-1	瓦器	8.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	暗灰色	粗	良好			
		小皿	1.7							
111	SD-1	U陶器	7.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にじい 黄褐色	0.5mmから 1mm程度の 砂粒を含む。	良好			
		小皿								
112	SD-2	瓦器	17.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラミガキ。	暗灰色	粗	良好			
		瓶								
113	SD-2	瓦器	5.6	体部内面ヘラミガキ。見込みに横子の縞文 を流す。外面ナデ。	灰色	0.5mmから 3mm程度の 砂粒を含む。	良好			
		瓶	0.7							
114	SD-4	瓦器	15.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、 外面ナデ。	白色	粗	良好			
		瓶								
115	SD-4	瓦器	14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、 外面ナデ。	灰色	0.5mmから 2mm程度の 砂粒を含む。	良好			
		瓶	4.4							
		瓶	5.5							
		瓶	0.3							
116	SD-4	瓦器	5.2	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰色	粗	良好			
		瓶	0.5							
117	SD-4	瓦器	9.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、 外面ナデ。	灰色	0.5mmから 3mm程度の 砂粒を含む。	良好			
		小皿	2.2							
118	SD-4	土師器	13.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、 外面ナデ。	灰黃褐色	粗	良好			
		小皿								
119	SD-4	土師器	8.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	にじい 褐色	粗	良好			
		小皿								
120	SD-4	土師器	0.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	灰白色	粗	良好			
		小皿								

報告番号 回収番号	出土遺構	種類 器種	口径 器高 高台径	形態・特徴	色調	胎土	焼成	備考
121	SD-4	土師器	8.4	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
122	SD-4	小皿 土器	8.6	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
123	SD-5	瓦器	5.2 0.5 幅	体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	暗灰色	粗	良好	
124	SD-5	瓦器	9.0 1.8	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ヘラミ ガキ。	灰色	粗	良好	
125	SD-5	土器	13.4	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
126	SD-5	土器	15.0	口縁部内外面ヨコナテ。体部内面ヘラミガ キ、外側ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
127	SD-5	土器	8.8	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	褐色	粗	良好	
128	SD-6	土器	9.6	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	淡褐色	粗	良好	
129	SD-8	小皿 瓦器	5.0 0.6 幅	体部内面ヘラミガキ、外側ナデ。	灰色	0.5 mm から 1 mm 程度の 砂粒を含む。	良好	
130	SD-8	瓦器	3.5 0.2 幅	体部内面ヘラミガキ、外側ナデ。	灰褐色	粗	良好	
131	SD-8	土器	8.2	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	褐色	粗	良好	
132	包含層	瓦器	15.4	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ヘラミ ガキ。	黒色	粗	良好	
133	包含層 2 c	瓦器	4.8 0.5 幅	体部内面ヘラミガキ、外側ナデ。	灰白色	粗	良好	
134	包含層 1 b	瓦器	4.6 0.5 幅	体部内面ヘラミガキ、外側ナデ。	暗灰色	粗	良好	
135	包含層 2 c	瓦器	9.6 2.2	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ヘラミ ガキ。	黒色	粗	良好	
136	包含層 1 b	土器	14.2	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	
137	包含層 2 c	土器	9.0	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 褐色	粗	良好	
138	包含層	土器	9.0	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5 mm から 1 mm 程度の 砂粒を含む。	良好	
139	包含層 1 b	小皿 土器	8.4 1.3	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	粗	良好	
140	包含層	小皿 土器	9.0	口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面ナデ。	に赤い 黄褐色	0.5 mm 程度 の砂粒を含む。	良好	

3. まとめ

今回の調査では、平安時代末期から鎌倉時代の居住域を確認した。また、近世の遺構も検出していることから、当調査地付近一帯に当時の集落が存在していたことがわかった。

SE-1とSE-2は平安時代末期頃に据られ、鎌倉時代後期ごろまで機能していたと推定される。同時期の遺構は他に土坑、溝、小穴があり、今回の調査地で居住していたと推定される。しかし、今回の調査は約85m²と小規模であるため、屋敷等の建物跡の復元は不可能であった。今後近接している地域を発掘調査することによって、同時期の集落域が明らかになると推定される。

同遺跡内の平安時代末期から鎌倉時代にかけての遺構は、第3次調査、第4次調査、第15次調査¹、第16次調査²、第18次調査²で水田を検出しており、今回検出した居住域はこの水田を耕作していた人々のものと推定される。

註1 「八尾市埋蔵文化財発掘調査概報 1980・1981年度」1983年8月 財団法人八尾市文化財調査研究会報告2

註2 「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度」東郷 田井中 1989年3月 財団法人八尾市文化財調査研究会報告17



調査地全景（西から）



SE-2 完掘状況（東から）



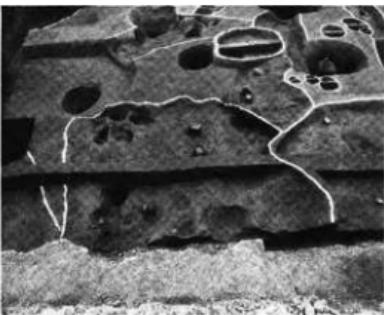
SE-1 遺物出土状況（南から）



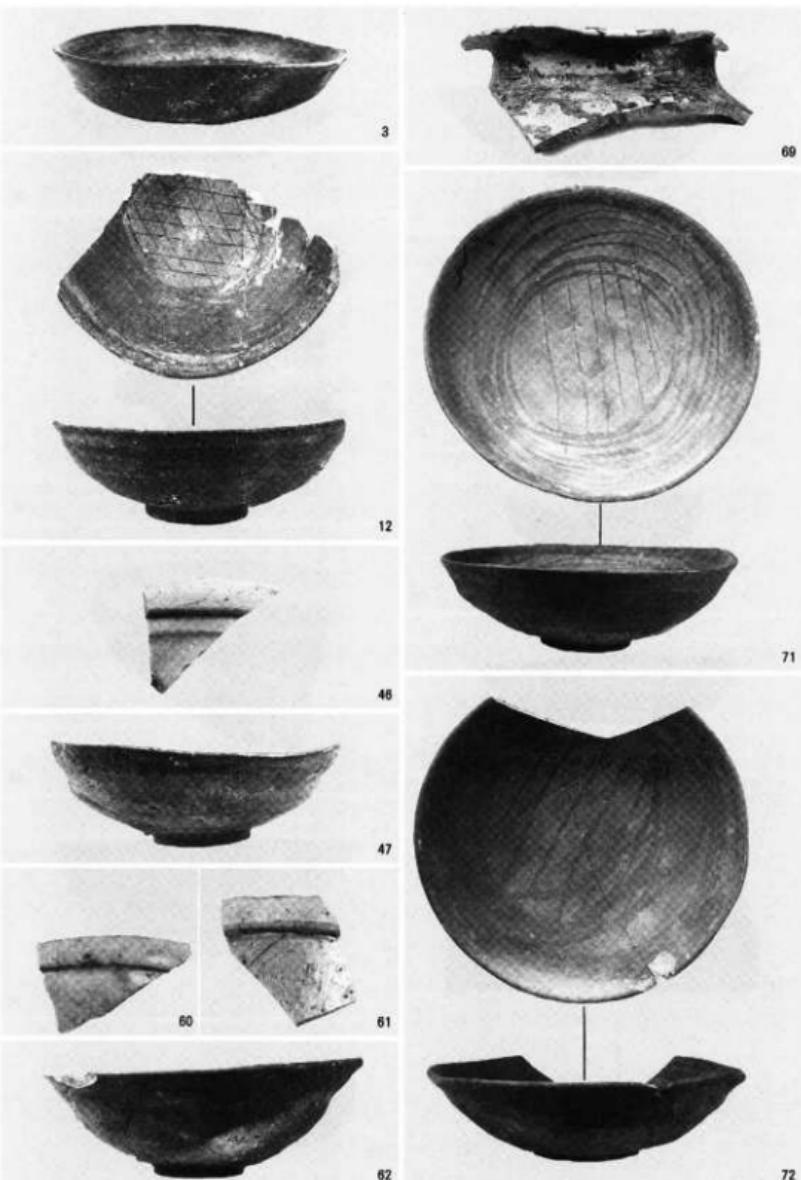
SE-1 完掘状況（南から）



SK-2 遺物出土状況（南から）



SK-3 遺物出土状況（南から）



SE-1 (3+12) SE-2 (48) SK-1 (47+60+61) SK-2 (62+69) SK-3 (71+72) 出土遺物



74



87



76



95



79



80



98



82



99



126

SK - 3 (74・76・79・80・82・87・95・98・99) SD - 5 (126) 出土遺物

II 東郷遺跡第42次調査 (TG93-42)

大　　正　　年　　代

例　　言

1. 本書は、八尾市荘内町1丁目28-10で実施した共同住宅建設工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する東郷遺跡第42次調査（TG93-42）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第70号 平成5年9月17日）に基づき、財團法人八尾市文化財調査研究会が萱村正次氏から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成5年12月1日～平成5年12月13日にかけて、岡田清一を調査担当者として実施した。調査面積は約260m²である。なお、調査においては澤井幹・大見康裕・與儀徳保が参加した。
1. 本書に関わる業務は、遺物実測－内山千栄子・吉田由美恵、遺物トレース－北原清子、本文の執筆・編集・写真撮影は岡田が担当した。

本　　文　　目　　次

1.はじめに.....	29
2.調査概要.....	30
1) 調査の方法と経過.....	30
2) 基本層序.....	31
3) 検出遺構と出土遺物.....	32
4) 出土遺物観察表.....	37
3.まとめ.....	38

II 東郷遺跡第42次調査 (TG93-42)

1. はじめに

東郷遺跡は八尾市のはば中央に位置し、現在の行政区画では、北木町・東本町・光町・桜ヶ丘一帯がその範囲になる。地理的には楠根川と長瀬川に挟まれた地域にあたり、弥生時代中期から鎌倉時代にいたる複合遺跡である。周辺の遺跡では北に萱振遺跡、南に成法寺遺跡、西に久宝寺遺跡、南東に小阪合遺跡が隣接している。

本遺跡内では現在までに当調査研究会および八尾市教育委員会によって、48件を数える調査が実施されている。また、大阪府教育委員会が昭和62～63年度にわたって実施した楠根川改修工事に伴う調査で、他地方からの撒入土器や特殊器台をはじめ、新羅系の土器が発見されるなど弥生時代から奈良時代にかけての貴重な成果が報告されている。さらに遺跡名は異なるが、当調査地部の東西に伸びる都市計画道路平野高安線拡幅工事に伴う同教育委員会の一連の調査^{註1}



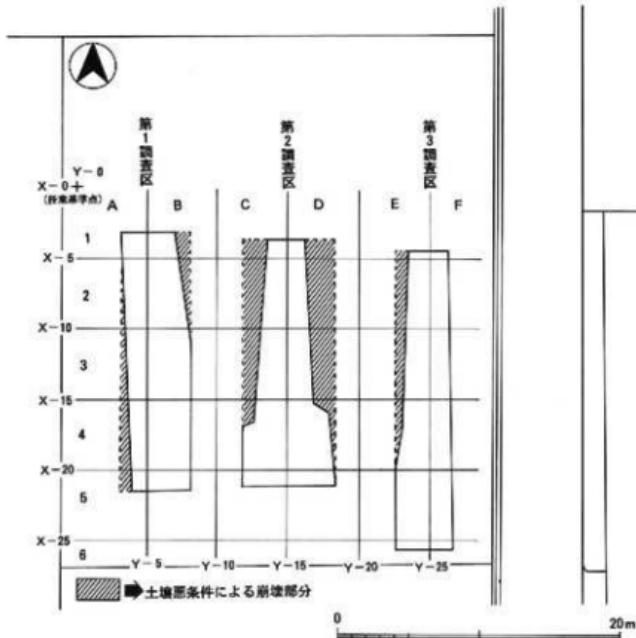
第1図 調査地周辺図

(成法寺遺跡 第1図参照)においても、古墳時代前期の集落址、円形周溝墓、弥生時代中期の方形周溝墓群をはじめ、多数の遺構・遺物が検出されている。

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は共同住宅建設工事に伴うもので、当調査研究会が本遺跡内で実施した第42次(TG93-42)にあたる。調査区は工事によって破壊される部分を対象とし、西から第1調査区(東西3m×南北18m)、第2調査区(東西7m×南北18m)、第3調査区(東西4m×南北21m)とした。しかし、事実上の調査面は、調査前に整地された盛土の土質が悪質で不安定などころが多く、調査区の壁面が調査中に崩れ落ちたところもあり、部分的に支障を負った。地区割りについては北西隅に任意の基準点を設置し、1区画を5m四方で南北方向を算用数字(1~6)、東西方向をアルファベット(A~F)で表示し、地区名を1A~6F区と呼称した。



第2図 調査地区割図

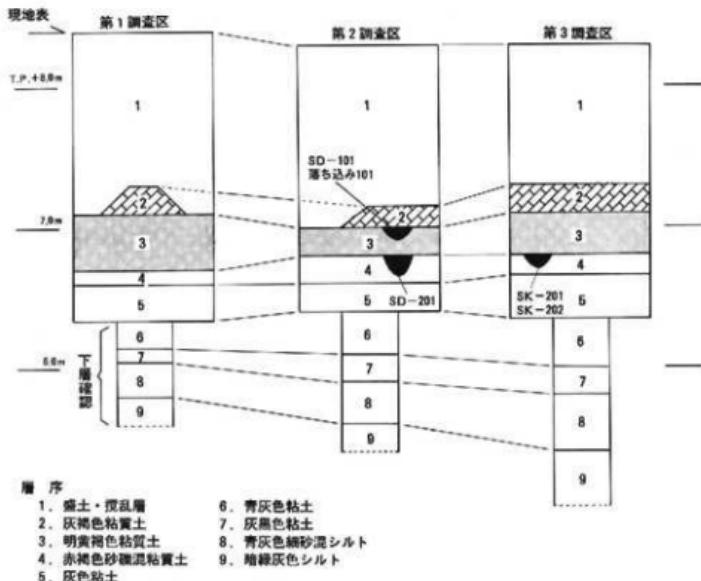
掘削については、各調査区ともに八尾市教育委員会の造構確認調査資料を参考に、現地表（標高8.3m前後）下1.2m前後を機械掘削した後、以下0.4m前後を人力により掘削し、造構・造物の検出に努めた。その結果、第2調査区において鎌倉時代後期頃に比定される溝1条（SD-101）・落ち込み1箇所（SO-101）、古墳時代前期の溝1条（SD-201）、第3調査区においては古墳時代前期の土坑（SK-201・202）を検出した。

2) 基本層序

調査地のはほとんどが、近年における盛土および擾乱によって中世期以降の堆積層を削平している。しかし、古墳時代前期に比定できる土層の堆積は3地区とも比較的安定した様相である。以下、下層確認も含めて普遍的に堆積する9層を抽出して基本層序とし、記述する。

第1層：盛土および擾乱層（層厚1.2m前後）。

第2層：灰褐色粘質土（層厚0.15m前後）。中世期の土師器の小破片が含まれる堆積層で模式図には示しているが、既述したように調査区全域に堆積するものではなく、断片的に僅かに確認されるだけである。



第3図 調査地区別基本層序模式図

第3層：明黄褐色粘質土（層厚0.35m前後）。古墳時代前期（布留式期）の遺物包含層にある。第2調査区の北部では、本層の上面（標高7.0m前後）が鎌倉時代後期の遺構検出面になる。

第4層：赤褐色砂礫混粘質土（層厚0.15m前後）。酸化鉄分を含む。本層の上面（標高6.8m前後）が古墳時代前期（布留式期）の遺構検出面になる。

第5層：灰色粘土（層厚0.35m前後）。

第6層：青灰色粘土（層厚0.4m前後）。第3調査区では砂礫が含まれる。

第7層：灰黒色粘土（層厚0.2m前後）。植物遺体を若干含む。

第8層：青灰色細砂混シルト（層厚0.2m前後）。

第9層：暗緑灰色シルト（層厚0.3m以上）。

※第6～9層については、調査終了後に各調査区の中央付近で1m×2mのグリットを設定し確認したものであるが、遺構・遺物はみられなかった。

3) 検出遺構と出土遺物

[第1調査区]

鎌倉時代後期

第2層灰褐色粘質土層内から、瓦器碗および土師器皿の破片が数点出土したが、遺構は確認できなかった。遺物は図化不能であるが、瓦器碗のタイプから尾上編年のⅢ-3期に比定できよう。

古墳時代前期

第3層明黄褐色粘質土層内から、甕の口縁部片・小型丸底壺の小破片が出土したが、遺構は確認できなかった。遺物は図化不能であるが、土器の形態および調整から布留式期の中相段階に比定できよう。

[第2調査区]

鎌倉時代後期

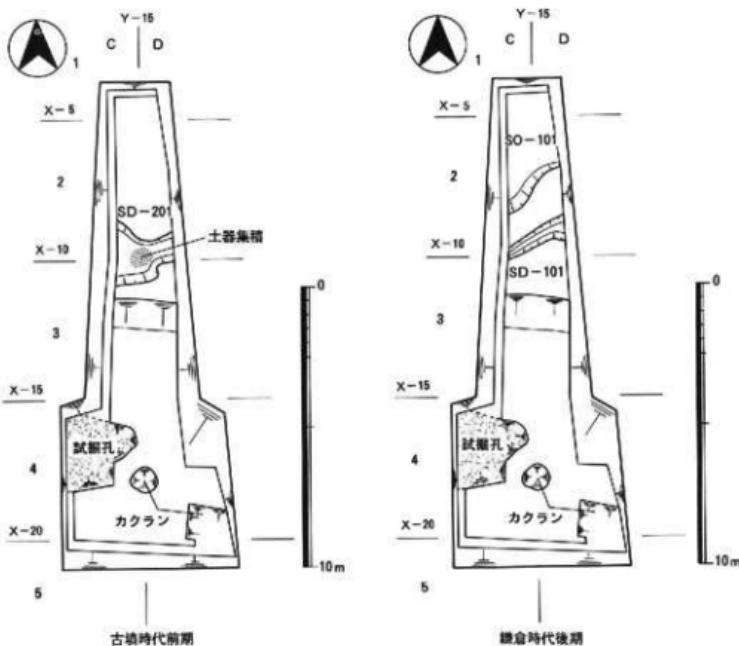
溝（SD）

SD-101

調査区北部2C～2D区・3C～3D区で検出した。北東～南西方向に伸びる溝で、幅40～90cm・深さ5cm前後を測る。断面の形状は浅い瓶型を呈する。遺構内埋土は褐灰色粘質土で、内部からは土師器小皿の破片が出土した。

落ち込み（SO）

SO-101



第4図 第2調査区造構平面実測図

SD-101の北側で検出した。造構の南肩が、ややSD-101と並行するかたちで北部に向かって緩やかに落ち込む。検出部の最深部は0.1m前後を測る。造構内埋土は灰黒色粘土で、炭化物を含む。内部からは土師器の小破片が少量出土した。

古墳時代前期

溝 (SD)

SD-201

調査区北部2C~2D区・3C~3D区で検出した。上層造構のSD-101と重複するかたちになるが、方向的には東西に伸びるものとおもわれる。規模は、幅1.1~2.5m・深さ0.15mを測る。断面の形状は逆台形を呈する。造構内埋土は第1層暗茶褐色砂礫混粘質土・第2層淡灰褐色粘質土の2層に分層できる。埋土内遺物は、溝のほぼ中央にかたまって両層から出土した。出土した遺物のうち図化できたものは20点で、内分は小型壺4点(1~4)・直口壺1点(5)・広口壺1点(6)・甕7点(7~13)である。これらの土器を「久宝寺遺跡第1次

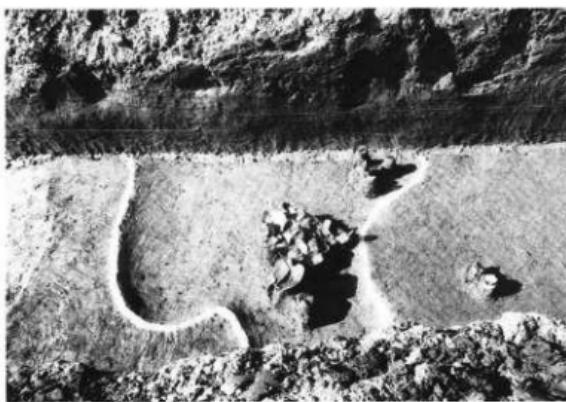
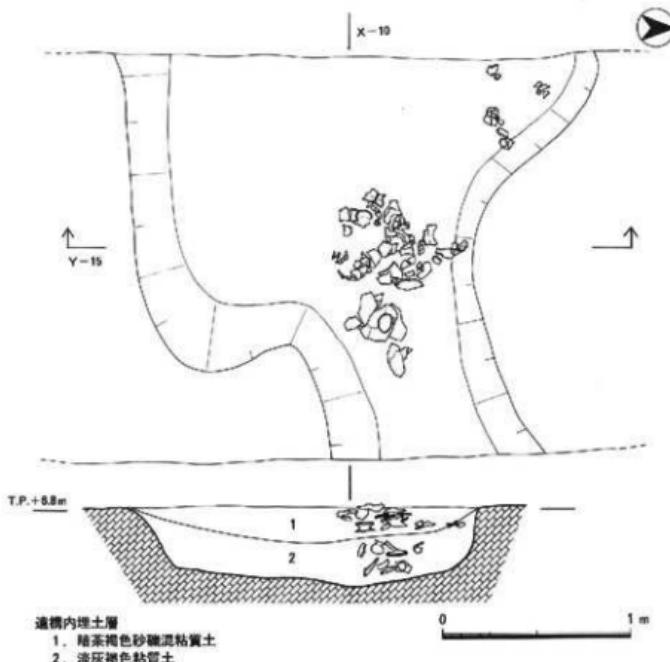
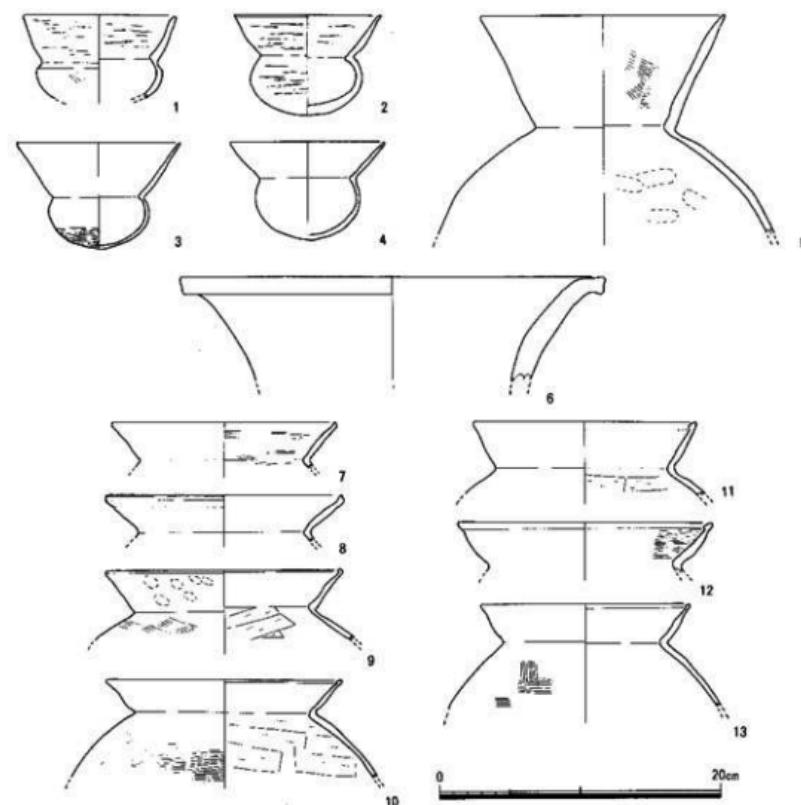


写真1 SD-201(東から)



第5図 SD-201内土器集積平・断面図



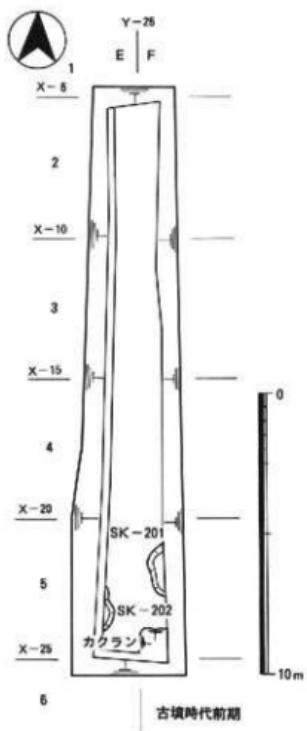
第6図 SD-201 出土遺跡実測図

(KH84-01) 調査報告」内の器種分類(1993 原田)^{註3}でみると、小型壺が小型壺B₁・B₂、直口壺が大型直口壺A、広口壺が広口壺B、壺は壺E・壺Fにあたる。これら個々の器種形態から時期検討すると、原田編年でいう布留Ⅰ～Ⅱ期とする布留式古相段階に相当する。また、全体の遺物量は図化できなかった破片を含めると約30個体分の土器が集積していたものとおもわれる。

[第3調査区]

縄合時代後期

遺物包藏量の割合からみると他の2地区と比較して密度は高いが、遺構は確認されなかった。



第7図 第3調査区遺構平面実測図



写真2 調査風景 (SD-201遺構掘り)

遺物は瓦器および土師器の小破片で、図化できる遺存度の良いものはなかった。

古墳時代前期

土坑 (SK)

SK-201

調査区南部5F区で検出した。東部が調査区外に至るため全容は不明である。検出部分での規模は、最大径1.9m・深さ0.1mを測る。遺構内埋土は上から第1層暗茶褐色砂疊混粘質土・第2層淡灰褐色粘質土の2層に分層できる。遺物は第2層から庄内式壺の口縁部片が出土した。

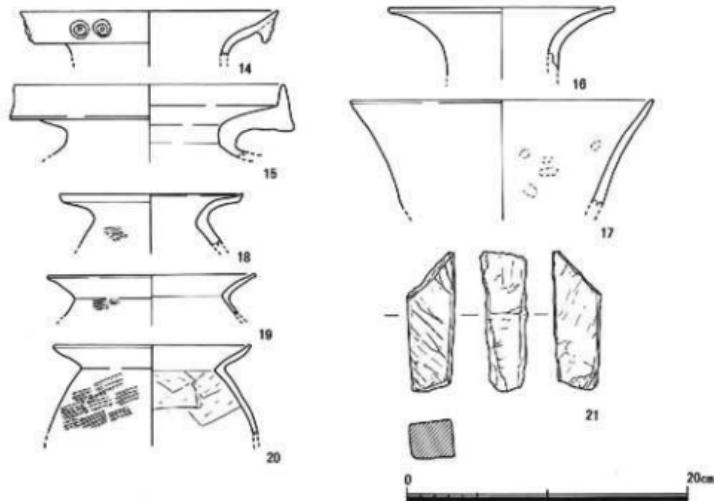
SK-202

SK-201の南西部で検出した。西部が調査区外に至るため全容は不明である。検出部分での最大径1.5m・深さ0.1mを測る。遺構内埋土は暗茶褐色砂疊混粘質土で、遺物は出土しなかった。

<遺構に伴わない出土遺物>

第3調査区の第4層赤褐色砂疊混粘質土内からは、古墳時代前期（庄内式崩新相～布留式期中相段階）に比定される土器が、コンテナ箱（幅40cm×長さ60cm×深さ20cm）にして約%出土した。そのうち図化できたものは壺が4点（14～17）、甕が3点（18～20）・砾石が1点（21）である。既

述の器種分類では（14・15）は複合口縁壺A、（16）は広口壺C、（17）は大型直口壺A、（19）は甕B、（20）は甕Eにあたる。これらの器種形態はすべて時期的に、布留I期とする布留式古相段階の範疇に納まるものである。（18）の甕については、搬入品（四国産？）とおもわれる。



第8図 第3調査区第4層出土遺物実測図

4) 出土遺物観察表

遺物番号 団版番号	器種 出土地点	法規 口径 (ca.) 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	保存状況 備考
1 小皿丸底盤 (土師器) SD-201		10.6 —	口縁部内外面ヘラミガキ。体部内面磨滅のため調整不鮮。	内/暗茶色 外/暗茶褐色	2mm以下の長石・黒母・石英を含む	良好	口縁部一体 部少
2 同上 三		10.4 7.2	口縁部内外面ヘラミガキ。体部内面ナデ、外面ヘラミガキ。	内/淡茶褐色 外/赤褐色	2mm以下の長石を含む	良好	ほぼ完形
3 同上 三		11.4 7.6	口縁部~体部上半の内外面は磨滅のため調整不明。体部下半の内面ナデ、外面ヘラミガキ。	明茶褐色	2mm以下の長石を含む	良好	% 体部外側下半に風化を有する
4 同上 三		11.0 7.9	口縁部内面ヨコナデ以外は剥離のため調整不明。	明茶褐色	2mm以下の長石を含む	良好	%
5 直口盤 (土師器) SD-201 三		17.4 —	口縁部内面ヘカナデ、外面ヨコナデ。肩部内面指摘点、外面部ナデ(やや剥離気味)。	茶褐色	3~8mmの長石・黒母・角閃石・石英を含む	良好	口縁部は既 完形
6 広口盤 (土師器) SD-201 三		30.0 —	口縁部内外面ヨコナデ・ナデ(磨滅気味)。	内/暗茶褐色 外/茶褐色	5mm以下の長石・黒母・石英を含む	良	口縁部少
7 甕 (土師器) SD-201		15.8 —	口縁部内面ハケナデ、外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2mm以下の長石を含む	良	口縁部少
8 同上		16.6 —	口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶色	3mm以下の長石・黒母・角閃石・石英を含む	良	口縁部少

遺物番号 国歴番号	器種 出土地点	法基 口径 (cm) 基高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成 度	遺存状況 備考
9 ■ SD-101	壺 (上部) SD-201	16.4 —	口縁部内面ヨコナデ、外面部粗面。肩部内面ヘラケズリ、外面ハケナダ。	茶褐色	4 cm以下の 良石・當母・ 角閃石を含む	良好	口縁部外 側
10	同 上	16.6 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ、外面ハ ケナダ。	茶褐色	2 mm前後の 長石・當母 を含む	良好	口縁部外 側
11	同 上	15.6 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ、外面質 感不明。	淡赤褐色	2 mm以下の 長石・當母 を含む	良	口縁部外 側
12	同 上	16.0 —	口縁部内面ヘカナデ、外面ヨコナデ(燒成氣味)。	乳灰褐色	2 mm以下の 長石・當母・ 角閃石を含む	良好	口縁部外 側
13	同 上	14.8 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面磨感のため調査不明、 外表面ハケナダ。	淡褐色	2 mm以下の 長石を含む	良	口縁部～肩 部外
14 三	複合口縁壺 (上部) 第3調査区 (第4層)	18.2 —	外表面ともに磨感が著しく調査不明。口縁端部外面に 円形浮紋を施す。	乳茶色	5 mm以下の 長石・石英 を含む	良好	口縁部外 側
15 二	同 上	19.0 —	口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	茶褐色	5 mm以下の 長石・石英 を含む	良好	口縁部外 側 口縁部内面 に黒斑を有 する
16 一	広口壺 (土師器) 第3調査区 (第4層)	15.8 —	口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶色	4 mm以下の 長石・石英 を含む	良好	口縁部外 側
17	直口壺 (土師器) 第3調査区 (第4層)	21.2 —	口縁部内面ヨコナデ、外面部粗面。口縁端部後ヨコナデ。	淡茶褐色	6 mm以下の 長石・角閃 石・石英を 含む	良好	口縁部外 側
18	壺 (土師器) 第3調査区 (第4層)	13.0 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ナデ、外面部タキ。	茶褐色	3 mm以下の 長石・當母・ 角閃石・石 英を含む	良好	口縁部～肩 部外 側入品か?
19	同 上	14.8 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ、外面タ キ。	淡茶褐色	2 mm以下の 長石・當母・ 角閃石を含 む	良好	口縁部外 側
20	同 上	15.8 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ、外面タ キ(3~4本/cm)。	茶褐色	3 mm以下の 長石・當母・ 石英を含む	良	口縁部～肩 部外 側

3.まとめ

今回の調査では、鎌倉時代後期と古墳時代前期の二時期の遺構・遺物を確認することができた。鎌倉時代後期については、近代の耕地化および開発行為によってかなり削平を受けていることがわかった。当時期については、当地から北西に約30m地点で実施された第39次調査(TG92-39)で、当調査地の堆積層とレベル的には対応する中世の耕作面が確認されている。本調査で検出した溝(SD-101)および落ち込み(SO-101)もこの生産域と有機的なつながりをもつ遺構とおもわれる。

当地における古墳時代前期の遺構・遺物の遺存については周辺の既往の調査からも想定されたが調査の結果、比較的希薄な様相を呈するものであった。当時期に関連するとおもわれる遺構については、既述の第39次調査および当地から約50m地点で実施された第26次調査 (TG87-26)^{註4}において溝・小穴をはじめとする集落址がある。さらに本文中にも既述した第26次調査地の南に面する大阪府教育委員会による一連の府道の調査（成法寺遺跡）においても、同時期の集落址が確認されている。これら周辺の調査結果と今回の調査結果を照合すると、面的に制約があるため十分とは言えないが、当地にみられた遺構が一種拠点的な集落の外れにあたる場所とも考えられる。

<参考文献>

- 註1 大阪府教育委員会『東郷遺跡発掘調査概要・I -八尾市桜ヶ丘・旭ヶ丘所在-』1989年3月
- 註2 大阪府教育委員会『成法寺遺跡発掘調査概要・VII -八尾市南本町1丁目所在及び八尾市東本町5丁目所在（東郷遺跡）-』1994. 3
- 註3 財団法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』八尾市文化財調査研究会報告37 1993年
- 註4 財団法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市文化財調査研究会年報 昭和62年度』健八尾市文化財調査研究会報告16 1988年



写真3 調査地（北東から）

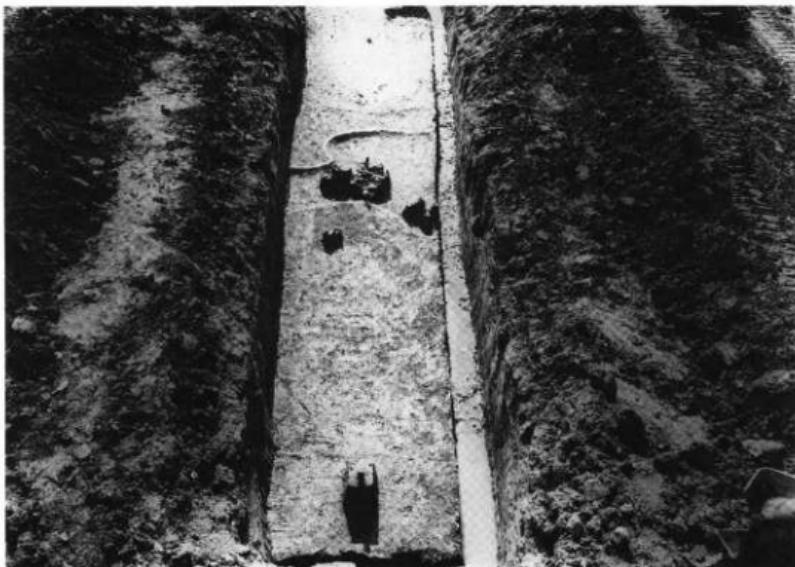


第1調査区（南から／中央は試掘孔）



第2調査区（鎌倉時代後期／北から）

図版二



第2調査区（古墳時代前期／北から）



第3調査区（古墳時代前期／南から）



2



6



3



14



4



15



5



21

SD-201 (2~6)、第3調査区 第4層出土 (14・15・21)

III 東鄉遺跡第45次調查 (TG93-45)

李 勝 文

例　　言

1. 本書は、八尾市桜ヶ丘3丁目45番、49番で実施した共同住宅建設工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する東郷遺跡第45次調査(TG93-45)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書(八教社文第124号 平成6年1月24日)に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が(株)マエダビルから委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成6年3月16日～平成6年4月1日にかけて、岡田清一を調査担当者として実施した。調査面積は約200m²である。なお、調査においては山喜弘一・福島友香・大見康裕・與儀徳保が参加した。
1. 本書に関わる業務は、遺物実測－北原清子・沢村妙子、遺物トレース－北原清子、本文の執筆・編集は岡田、写真撮影は成海佳子が担当した。

本　文　目　次

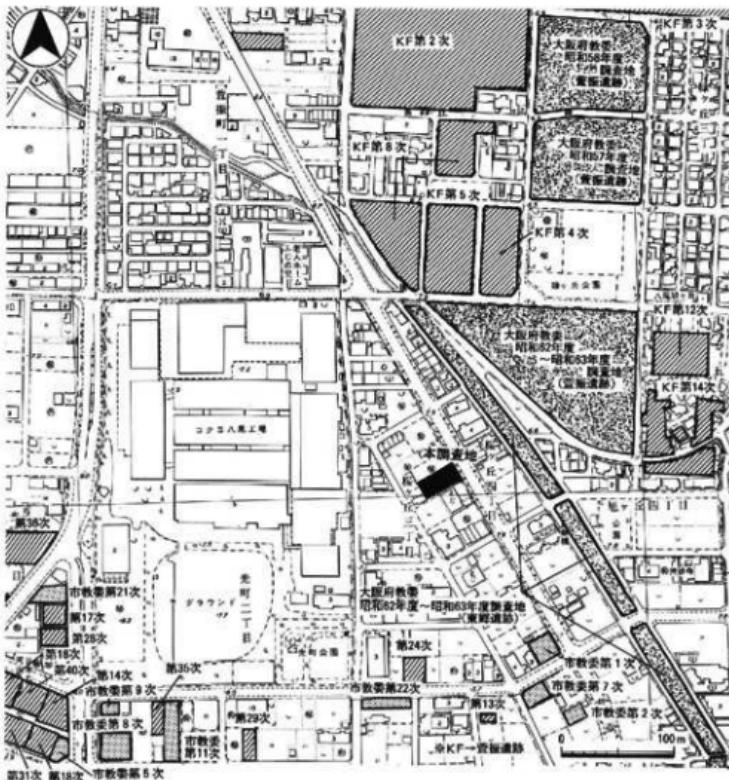
1.はじめに.....	43
2.調査概要.....	44
1) 調査の方法と経過.....	44
2) 基本層序.....	45
3) 検出遺構と出土遺物.....	45
4) 出土遺物観察表.....	51
3.まとめ.....	53

III 東郷遺跡第45次調査 (TG93-45)

1. はじめに

東郷遺跡は八尾市のほぼ中央に位置し、現在の行政区画では、北本町・東本町・光町・桜ヶ丘一帯がその範囲にあたる。地理的には楠根川と長瀬川に挟まれた地域で、弥生時代中期から鎌倉時代にいたる複合遺跡になっている。周辺の遺跡では北に萱振遺跡、南に成法寺遺跡、西に久宝寺遺跡、南東に小阪合遺跡が隣接している。

本遺跡内では現在までに、当調査研究会が実施した48件の調査以外に大阪府教育委員会、八



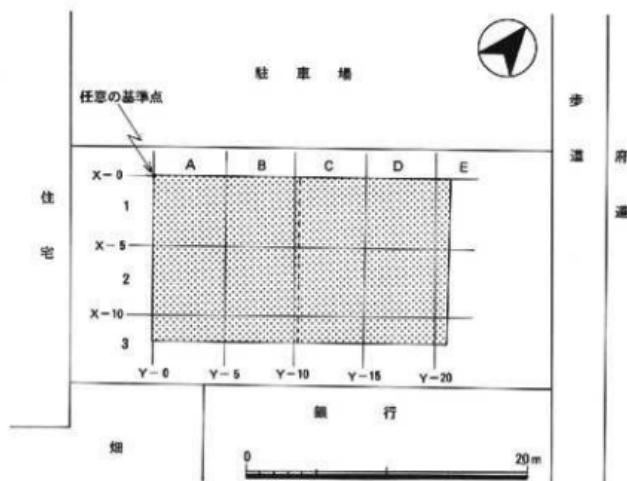
第1図 調査地周辺図

尾市教育委員会によっても数多くの調査が実施されている。本調査地付近では、東部において昭和62年～昭和63年に大阪府教育委員会が実施した楠根川改修工事に伴う調査¹で、他地域からの搬入土器・吉備地方の特殊器台をはじめ、弥生時代から奈良時代にかけての遺構・遺物が多数検出されている。さらにその北東部の萱振遺跡では同教育委員会（昭和62～63年）および当調査研究会（平成3年・平成4年）の公共事業に伴う調査において、古墳時代前期の住居址や方墳が検出されている。²³

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が当遺跡内で実施した第45次調査にあたる。調査区は工事によって破壊される部分となる東西約20m・南北約10mの面積およそ200m²を対象とした。調査方法については、掘削残土処理上の事情から調査区を東西で2分割して西側から調査を開始し、西側の調査がすべて終了してから東側の調査を実施した。地区割については調査区を設定した時点で北西隅に任意の基準点を設け、1区画を5m四方で南北方向を算用数字（1～3）、東西方向をアルファベット（A～E）で表示し、1 A区～3 E区と呼称した。掘削は八尾市教育委員会の造構確認調査結果を参考に、現地表下1.5m前後の盛土・旧耕土・床土までを重機により掘削した後、以下1m前後を人力によって掘削・精査を実施、



第2図 調査地区割図

遺構・遺物の検出に努めた。調査の結果、古墳時代前期から近世に至る遺構・遺物を検出した。

2) 基本層序

調査区全域に普遍的に堆積する8層を抽出して基本層序とした。

第1層：盛土および既存建築物の基礎部分となる

擾乱層（層厚130cm前後）。現地盤の標高

はT.P.+8.5m前後を測る。

第2層：旧耕土（層厚15cm前後）。

第3層：床土（層厚10cm前後）。

第4層：茶灰色砂礫混砂質土（層厚10~30cm）。

中世～近世の遺物を含む。

第5層：茶褐色砂礫混砂質土（層厚10~30cm）。

古墳時代前期～奈良時代の遺物を含む。

本層は土層の堆積状況や多数の土器片の

混入から考えて、奈良時代の整地層であっ

た可能性が高い。

第6層：茶灰色シルト（層厚5cm前後）。本層の上面が古墳時代前期～奈良時代の遺構検出面になる。

第7層：灰色礫混シルト（層厚30~40cm）。径3cm前後の小礫が多量に含まれる。

第8層：灰白色細砂～粗砂（※下層確認も含め、層厚5m以上を測る）。層内の遺物から古墳時代前期（布留式期）に比定される河川または洪水による堆積層とおもわれる。

3) 検出遺構と出土遺物

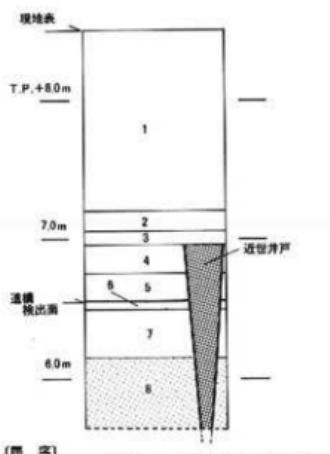
第6層茶灰色シルト層上面（標高6.5m前後）において、古墳時代前期の土坑1基（SK-401）、古墳時代中期の溝1条（SD-301）、古墳時代後期の土坑1基（SK-201）・奈良時代の土坑1基（SK-101）・溝1条（SD-101）、近世期の井戸1基（SE-001）を検出した。以下各時代ごとに記述する。

〔古墳時代前期〕

土坑（SK）

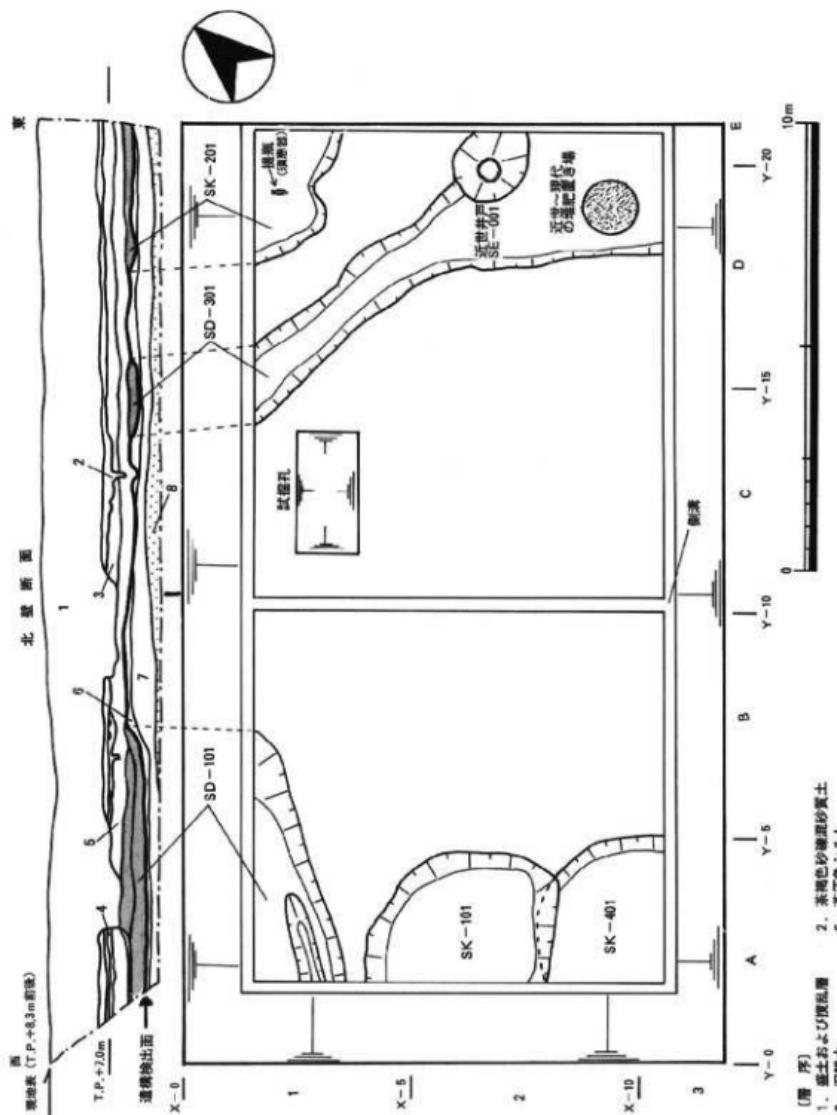
SK-401

調査区南西隅2A区～3A区で検出した。西部および南部は調査区外に至り、さらに北部の



第3図 基本層序模式図

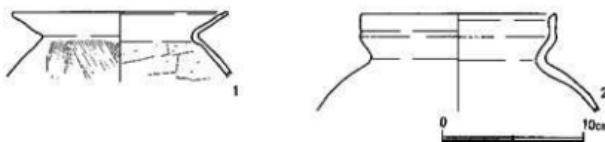
- | 層序 | | |
|--------------|--------------|--|
| 1. 盛土および擾乱層 | 5. 茶褐色砂礫混砂質土 | |
| 2. 旧耕土 | 6. 茶灰色シルト | |
| 3. 床土 | 7. 灰色礫混シルト | |
| 4. 茶灰色砂礫混砂質土 | 8. 灰白色細砂～粗砂 | |



第4図 道標平・断面(北壁)実測図

- (圖 4)
1. 直土および保水層
 2. 茶灰色砂砾透水質土
 3. 旧耕土
 4. 未固結土
 5. 茶灰色砂砾透水質土
 6. 茶灰色シルト
 7. 茶灰色砂透水質シルト
 8. 茶灰色砂砾透水質土

一部を奈良時代の土坑SK-101によって切られているため、全容は不明である。検出部の最大人径2.4m・深さ0.24mを測る。埋土は褐灰色粘質土である。内部からは古墳時代前期（庄内式中相～布留式古相）に比定される壺・甕が出土したが、そのほとんどは破片で磨滅気味のものである。岡化できたものは、体部外面上位にハケナデがみられる甕（1）と山陰地方からの搬入品とみられる甕（2）の2点である。



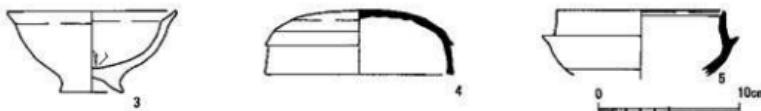
第5図 SK-401 出土遺物実測図

〔古墳時代中期〕

溝 (SD)

SD-301

調査区東部で検出した。南東～北西方向に伸びる溝である。規模は検出部で幅1.0～2.6m・深さ0.05～0.22mを測る。断面の形状は皿型を呈する。埋土は暗紫灰色砂疊混粘質土で、内部からは須恵器の蓋杯の破片・甕、土師器の甕が出土した。そのうち岡化できたものは古墳時代前期（庄内式）からの混入品とみられる台付き鉢が1点（3）・TK-208型式に位置付けられる蓋杯が2点（4・5）の3点である。^{註4}



第6図 SD-301 出土遺物実測図

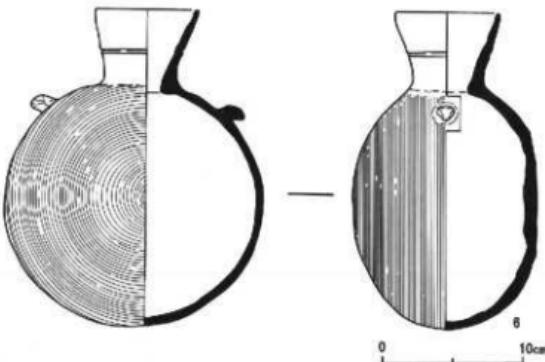
〔古墳時代後期〕

土坑 (SK)

SK-201

調査区北東隅1D区～2E区で検出した。北部および東部は調査区外に至るため、全容は不明である。規模は検出部で最大径3.0m・深さ0.1mを測る。埋土は黄灰色粘質土である。内部からは土師器および須恵器の小破片とともに、ほぼ完形品に近い提瓶が1点（6）出土した。提瓶は口縁部を北西に、体部の側面をそれぞれ上下に横位に立った状態でみつかった。遺物検

出の際に確認したところでは、遺構内埋土とはやや異なった性質をもつ土層が、遺物周辺に堆積しているのが看取できた。遺構の掘方以外に人為的に埋納されたような形跡はみられなかったが、その提瓶の出土状況から、何等かの祭祀場であった可能性が高い。提瓶のタイプはTK10型式に類似するので、おおよそ6世紀後半に求められる。



第7図 SK-201 出土遺物実測図



写真1 提瓶出土状況（南東から）

[奈良時代]

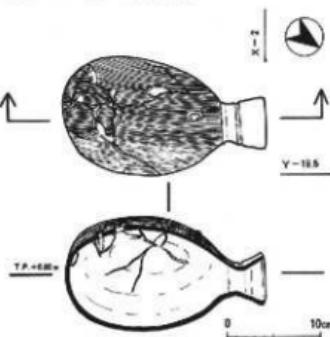
土坑（SK）

SK-101

古墳時代前期の土坑SK-401の北側で検出した。西部は調査区外に至るため全容は不明である。検山部で最大径4.0m・深さ0.4mを測る。埋土は上層暗褐色砂質土（鐵化鉄分を含む）・下層褐色粘質土の2層に分層できる。遺物は上層から須恵器の壺の体部片・蓋杯の破片、下層から土師器の壺の口縁部片が出上したが、図化できるものはなかった。

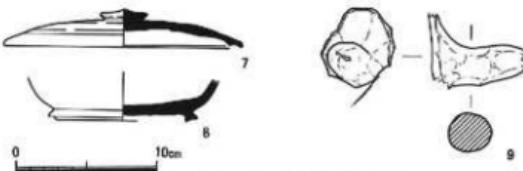
SD-101

調査区北西隅で検出した。方向は北東-南西に伸びるものと推定できるが、検出できたのは、溝の南肩（岸）で、北肩（岸）は調査区外に至る。規模は検出できた部分で最大幅2m前後。



第8図 SK-201内 提瓶出土 平・断面図

深さ0.3mを測る。埋土は上層茶灰色砂礫混粘質土・下層褐灰色粘質土の2層に分層できる。遺物は両層から土師器では壺・瓶(把手)、須恵器では



第9図 SD-101 出土遺物実測図

蓋杯が出上した。そのうち図化できたものは蓋杯の蓋(7)・身(8)・瓶(9)の3点である。

蓋杯のタイプは、平城宮土器I～IIの範疇に納まる。

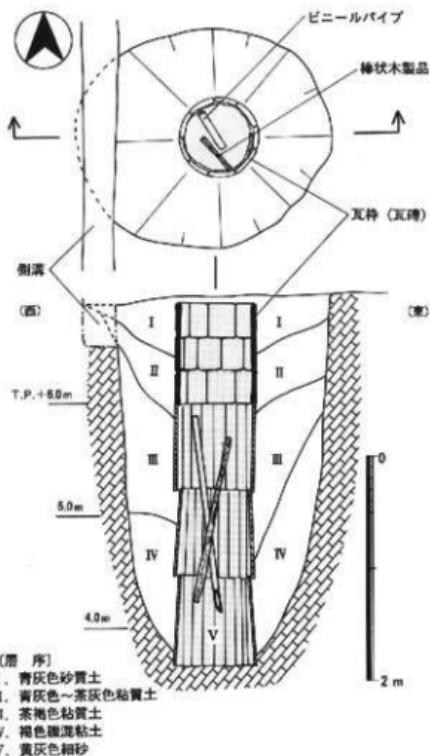
註5

[近世]

井戸(SE)

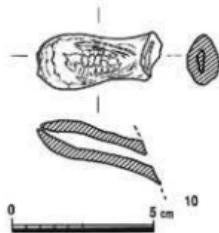
SE-001

調査区東部2D区～2E区で検出した。平瓦(瓦磚)と桶を井戸側として構築された井戸である。掘方は東部の一部が調査区外に至っているが、検出状況から推定してほぼ円形を呈するものとおもわれる。断面は深いU字型を呈する。掘方の法量は径2m前後・深さ3.5m前後を測る。井戸側に使用されている底板部分を打ち抜いた桶は径70cm前後・深さ80cm前後を測るもの3段で、さらにその上に25cm×30cm・厚さ3cmの瓦磚が1周9枚で3段積み重ねられている。瓦磚は検出時、井戸内に別に3枚落ち込んでいたことから、本來は4段以上あったものと推定できる。井戸内には、井戸を埋める際に外部から運びこまれたであろう精製された黄白色の微砂が詰められていた。さらに井戸の中央には径5cm前後・



長さ180cm前後の塩化ビニールパイ

第10図 近世井戸(SE-101) 平・断面図



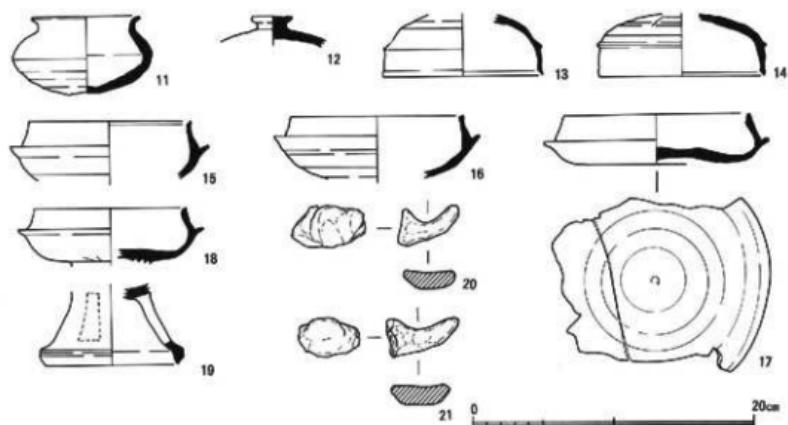
第11図 SE-001 出土遺物実測図

アとはほぼ同規模の棒状の木製品が交わるように突き立てられていた。これは、中世において井戸の廃絶に際し、水神の出入りを助けるために竹筒を立てること、或いはガス抜きとして竹を立てた慣行が、現代にいたっても受け継がれてきたという風習・儀礼のあらわれであろう。他に出土遺物としては、掘方埋土第IV層内から伊万里系の染付磁器や唐津・美濃・備前等の陶磁器類、きゅうすの把手（10）がある。井戸は出土遺物や周囲の状況からみて、近世に農耕に伴う灌漑用水として機能していたものが、現代の開発工事等によって埋められ、廃絶したものと考えられる。

〔造構に伴わない出土遺物〕

・第5層

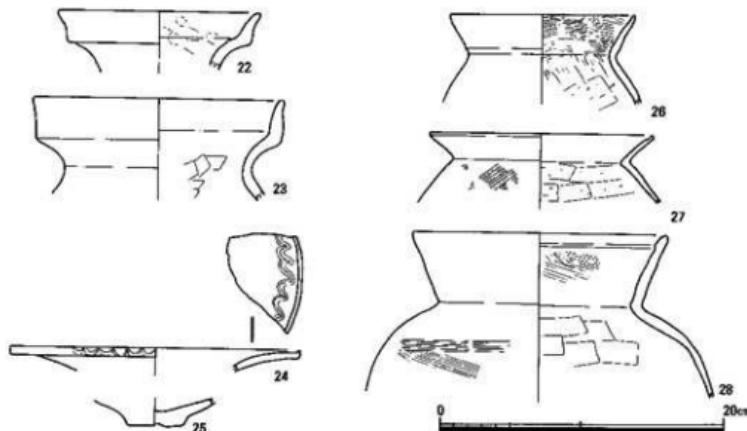
調査区内における造構に伴わない出土遺物のうち、図化できたものはすべて古墳時代中期～奈良時代の遺物を包蔵する第5層からのものである。内訳は瓶（把手）以外すべて須恵器である。器種は短頸壺1点（11）・蓋杯の蓋3点（12～14）・身3点（15～17）・高杯2点（18・19）の計9点を数える。蓋杯（17）の底部には「へ」のヘラ記号がみられる。これらの須恵器はタイプとしてTK216～208型式に属するものと考えられる。
註4



第12図 造構に伴わない出土遺物実測図I (第5層)

・下層確認（第8層）

調査終了後に調査区内に任意のトレンチを設定して、最終調査面から1m前後の下層確認を実施した。その結果、第8層とする砂層内から古墳時代前期の遺物を数点検出した。検出できた遺物は、河川または洪水の影響によるものかすべて磨滅・剥離が著しい。岡化できたものは複合口縁壺3点(22~24)、壺の底部1点(25)、甕3点(26~28)である。原田昌則(原田昌則 1993)でみると(22~24)はいわゆる複合口縁壺Bタイプ、(26)は布留式影響の庄内式甕Dタイプ、(27)はいわゆる河内型庄内式甕Bタイプ、(28)はいわゆる布留式甕Fタイプにそれぞれ分類できる。時期的にはすべて布留式期古相の範疇である。



第13図 遺構に伴わない出土遺物実測図Ⅱ（第8層）

4) 出土遺物観測表

遺物番号 団査番号	器種 出土地点	法量 口径 (cm) 岩高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	施成	遺存状況 備考
1 甕 (土甕) SK-401		15.0 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ヘラケズリ、外面ハケナデ(12本/cm)。	赤褐色	1mm以下の 長石・雲母・ 角閃石を含む	良好	口縁部4% 口縁部外面 に煤付巖山 地系
2 同上		13.8 —	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内面ナデ・擦損有、外面 擦滅のため調整不明。	赤褐色	1mm以下の 長石・雲母 を含む	良好	口縁部4% 口縁部外面 に煤付巖山 地系
3 台付き甕 (土甕) SD-301	底残	12.0 5.8 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ・ヘラナデ。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・雲母 を含む	良好 —	口縁部外面 に黒斑を有する

遺物番号 国版番号	器種 出土地点	法量 口径 (cm) 高さ	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成 度	遺物状況 備考
4 —	蓋杯 —身— (須恵器) SD-201	13.8 4.6 13.4 大井町高 2.5	マキアゲ、ミズビキ成型。天井部外面に回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	内／灰青色 外／淡灰色	1～2mmの 白色砂粒を 含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -左 外面に自然 粘付着
5 —	蓋杯 —身— (須恵器) SD-301	12.0 残存高 4.7 たちあがり 高 1.8 受部径 13.7	マキアゲ、ミズビキ成型。底部外面に回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	内／灰青色 外／淡黒灰色	1～2mmの 白色砂粒を 含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -右
6 —	鏡底 (須恵器) SK-201	7.2 22.6 基部径 6.0 体部最大径 18.3 体部最大幅 11.0	マキアゲ、ミズビキ成型。体部外側カキ回転。他は回転ナダ。口端部外側下方に1条の施錠を施す痕跡 外側に、先端の丸い左右1対の把手を付す。	灰色	1～3mmの 白色砂粒を 含む	良好 はぼ完形	
7 —	蓋杯 —身— (須恵器) SD-101	16.8 2.7 つまみ径 3.5 つまみ高 0.7	マキアゲ、ミズビキ成型。天井部外面に回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	淡灰色	1～2mmの 白色砂粒を 含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -左 外面に自然 粘付着
8 —	蓋杯 —身— (須恵器) SD-101	— — 高台径 9.0 高台径 8.8	マキアゲ、ミズビキ成型。底部外面均ナダ。他は回転ナダ。	淡灰色	1～2mmの 白色砂粒を 含む	良好 堅密	底部% 底面%
11 —	短鉢身 (須恵器) 第5層	7.4 — 从都後 6.7 体部最大径 9.3	マキアゲ、ミズビキ成型。体部外面下半分回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	灰色	0.1～2mmの 白色砂粒を 含む	良好 堅密	口周部%欠 損 体部完在 ロクロ回転 右
12 —	蓋杯 —身— (須恵器) 第5層	— — つまみ径 2.9 つまみ高 0.9	マキアゲ、ミズビキ成型。残存部分はすべて回転ナダ。	灰色	0.1～2mmの 白色砂粒を 含む	良好 堅密	つまみ付近 部のみ修理
13 —	同上	11.4 残存高 4.5 鍵径 11.2	マキアゲ、ミズビキ成型。天井部外面均回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	内／暗青色 外／灰黒～ 灰色	0.1～2mmの 白色砂粒 を含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -右
14 —	同上	11.8 残存高 4.5 鍵径 12.1	マキアゲ、ミズビキ成型。人井部外側下半分回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	内／灰黒色 外／灰色	0.1～2mmの 白色砂粒 を含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -右
15 —	蓋杯 —身— (須恵器) 第5層	11.4 残存高 4.2 受部径 14.0	マキアゲ、ミズビキ成型。底部外面均回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	灰色	0.1～5mmの 白色砂粒 を含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -左
16 —	同上	12.2 残存高 4.4 受部径 14.6	マキアゲ、ミズビキ成型。底部外面均回転ヘラケズリ。他は回転ナダ。	内～たちあ がり外側/ 灰色 体・底部外 面/灰黒色	0.1～3mmの 白色砂粒 を含む	良好 堅密	% ロクロ回転 -左

図 東洋遺跡第45次調査(TG93-45)

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	柱量 (cm) 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	遺存状況 備考
17 四	高杯 身一 (須恵器) 第5層	13.1 3.3 受部径 16.0 底面高 1.7	マキアゲ、ミズビキ成形。底面外周部回転ヘラケザリ。 他は回転ナダ。	灰褐色	0.1 ~ 2 mm の白色砂粒 を含む	良好 堅緻	% ロクロ回転 左 底面外周に 「へ」のヘ ク記号有り
18 四	高杯 一 身一 (須恵器) 第5層	10.8 残存高 3.8 たうちあがり 高さ 1.5 受部径 13.1 基部径 5.6	マキアゲ、ミズビキ成形。底面外周部回転ヘラケザリ。 他は回転ナダ。	内/淡灰色 外/灰褐色	0.1 ~ 2 mm の白色砂粒 を含む	良好 堅緻	% ロクロ回転 左
19 四	高杯 一 脚断一 (須恵器) 第5層	9.2 残存高 5.7 脚高 5.3 基部径 5.6	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナダ。残存状況から3 方向に長方形のスカシを有すとおもわれる。	灰色	0.1 ~ 3 mm の白色砂粒 を含む	良好 堅緻	%
22 四	複合口縁壺 (土師器) 第8層	14.3 —	内面指捺斑・ナダ、外面ヨコナダ。	赤褐色	1 mm以下の 長石を含む	良好	口縁部%
23 四	同上	17.3 —	口縁部内面ヨコナダ。瓶部内面ヘラナダ、外面ナダ。	茶褐色	3 mm以下の 長石・雲母・ 石英を含む	良好	口縁部%
24 四	複合口縁壺 (土師器) 第8層	20.4 —	内面ヨコナダ。口縁部外面上に1条、口縁部内面上 方に3条の波状紋を施す。	赤褐色	2 mm以下の 長石・角閃 石・石英を 含む	良好	口縁部%
25 四	壺 (土師器) 第8層	— — 底径 3.8	内面ヘラナダ、外面ナダ。	内/乳灰色 外/淡褐色	2 mm以下の 長石・雲母・ 角閃石を含む	良好	底部のみ 内面に黒斑 を有する
26 四	壺 (土師器) 第8層	13.0 —	口縁部内面ハケナダ (8本/cm)、外面ヨコナダ。内 面ヘラケザリ、外面ハケナダ (不規則)。	淡乳灰色	1 mm以下の 長石・赤色 礫化物を含 む	良好	口縁部%
27 四	同上	16.8	口縁部内外面ヨコナダ。肩部内面ヘラケザリ、外面タ キ (6本/cm)。	淡茶褐色	3 mm以下の 長石・雲母・ 石英を 含む	良好	口縁部%
28 四	同上	17.8	口縁部内面ハケナダ (6本/cm)、外面ヨコナダ。肩 部内面ヘラケザリ、外面ハケナダ (6本/cm)。	淡茶褐色	3 mm以下の 長石・雲母・ 角閃石を含 む	良好	口縁部～肩 部 (%) 残 存 口縁部内面に黒斑を 有す

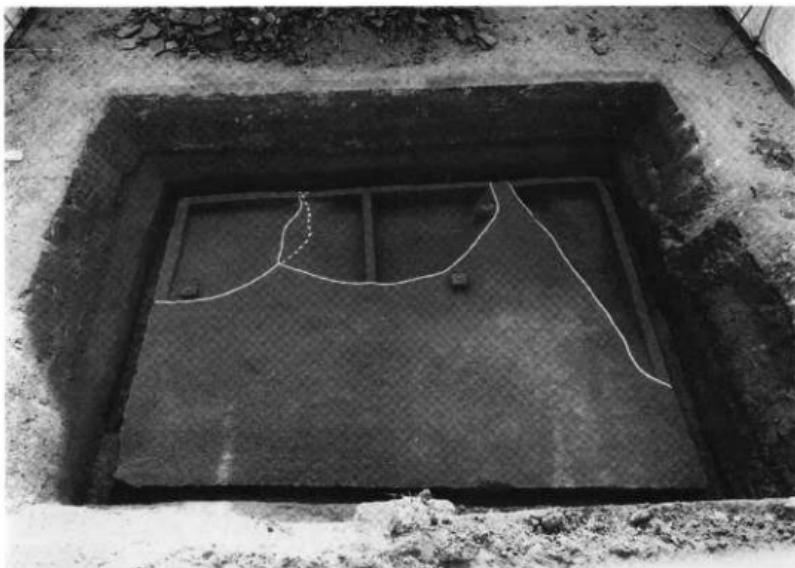
3. まとめ

今回の調査では、古墳時代前期から奈良時代まで連続と営まれつづけてきた居住城の一端を垣間みることができたが、いずれの時代も住居址を確認するまでは至らなかったとの、遺構・遺物の希薄さから性格上については証然としない。そこで、本調査の東部で昭和62年度～昭和63年度に大阪府教育委員会によって実施された楠根川改修工事に伴う調査と照合させながら当地の遺跡の様相をみることにする。大阪府教育委員会の調査では、自然流路遺構から古墳時代初頭に比定される遺物が多量に検出され、そのなかには、吉備南部・山陰・北陸の他地域産の

土器が含まれており、これらの上器は当地域が吉備をはじめとする他地域と頻繁に交流していたことを示唆する。本調査地では、当時期に対応する遺構として上坑SK-401以外に下層確認で認識した砂層の堆積がある。この砂層の堆積については、旧楠根川または木河川の洪水に起因するものと解釈でき、土坑についてはその出土遺物からさほど時期差をもたないところから、氾濫後すぐさま居住域として復興されたものとおもわれる。しかし、既述したように当地においては遺構・遺物は希薄であり、当地が集落の外れであることが窺える。古墳時代前期の集落の中心となる場所については、当地より西側では現在のところ遺跡の実態が解明されていないので、断定は避けたい。他に近隣の調査では、楠根川の調査地よりさらに北東部において同年、同教育委員会が府営住宅建設工事に伴う調査で、数基の方墳の検出から当時期の墓域が確認された。^{註2}ここで視点をかえて、本墓域と有機的関係にある集落の中心が楠根川を挟んで北部および東部に広がるものとするならば、当地で検出した遺構は当地より西側に集落の中心をもつことを暗示する。古墳時代中期以降奈良時代までについても、今回遺構・遺物が希薄であったにせよ、居住域が当地に存在していたことは必然である。また、当時期の上層断面をみると、層厚の薄い砂層の堆積が各所で観察でき、これらは旧楠根川の度重なる氾濫の様子を如実に物語るものといえる。当地は、人々が生活していく上において不安定な土地であったことは言うまでもない。平安時代以降中世・近代に至っては、今回調査期間の制約もあって面的に捉えることはできなかったが、本調査地の土層壁面にみられる耕作跡および大阪府教育委員会の調査（楠根川改修工事に伴う）結果から、当地が居住域から生産域へと移り変わった様相を窺^{註1}い知ることができる。

＜参考文献＞

- 註1 大阪府教育委員会『東郷遺跡発掘調査概要・I 一八尾市桜ヶ丘・旭ヶ丘所在-』1989年
- 註2 大阪府教育委員会『萱振遺跡発掘調査現地説明会資料』1987年
- 註3 財團法人 八尾市文化財調査研究会事業報告 平成3年度・平成4年度
- 註4 平安学園考古学クラブ『陶邑古窯址群 I』1996年
- 註5 古代の土器研究会編『古代の土器1 都城の土器集成』1992年
- 註6 財團法人 八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』八尾市文化財調査研究会報告37 1993年



西区 遺構面全景（東から）



東区 遺構面全景（西から）



西区 道構面全景（北東から）



東区 道構面全景（北西から）



近世井戸 瓦枠部分（北から）



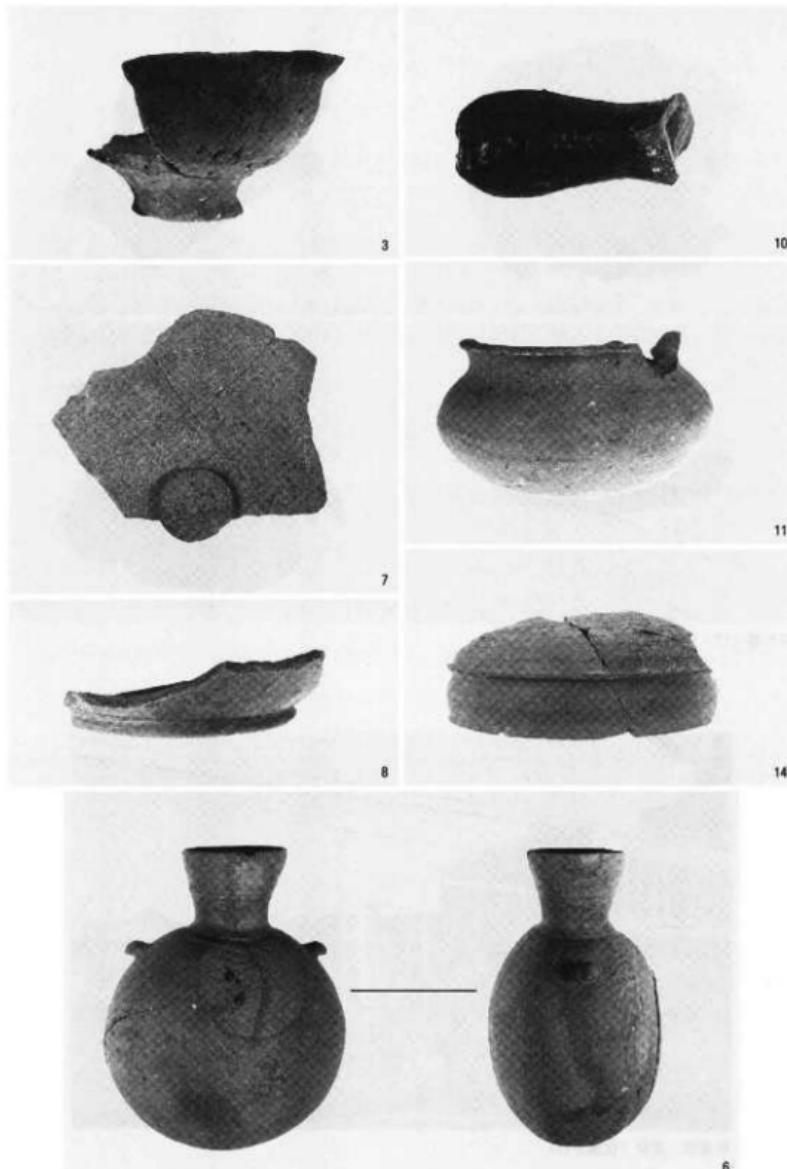
近世井戸 桶枠2段目（北から）



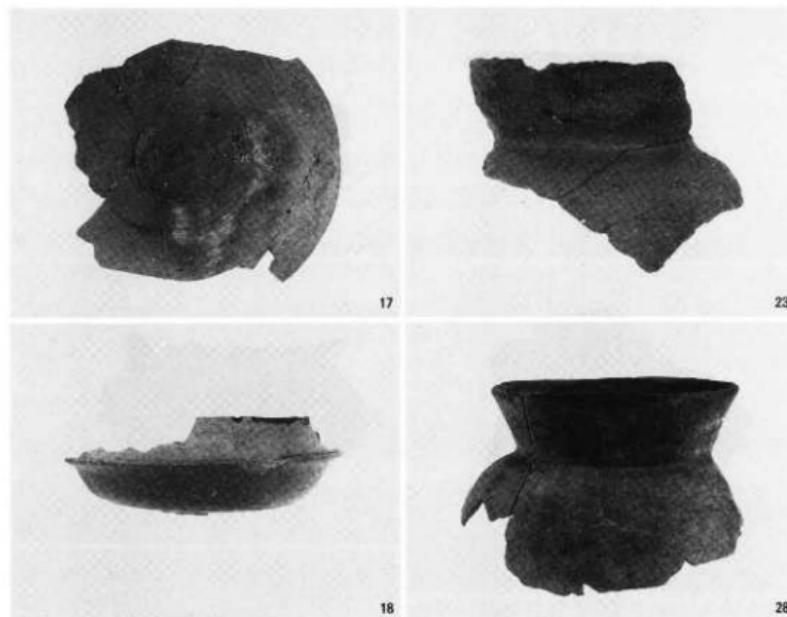
調査区 西壁面（北から）



調査風景（南から）



SD-301 (3)、SK-201 (6)、SD-101 (7・8)、SE-001 (10)、第5層 (11・14)



第5層（17・18）、第8層（23・28）



調査地 遠景（北東から）

IV 東鄉遺跡第46次調查 (TG94-46)

在這次調查中，我們發現了許多新的考古學證據。這些證據表明，東鄉遺跡在歷史上是一個非常重要的地點。我們發現了一個新的墓地，這裏埋葬著許多古老的文物。這些文物包括陶器、金銀器皿、玉器等。我們還發現了一個新的祭祀場所，這裏有許多古老的石碑和石像。這些石碑和石像都是用青銅或鐵鑄成的，上面刻著許多神秘的文字。我們還發現了一個新的居住區，這裏有許多古老的房屋和庭院。這些房屋和庭院都是用土磚或石頭砌成的，建築風格非常獨特。我們還發現了一個新的工作場所，這裏有許多古老的工具和機器。這些工具和機器都是用鐵或銅製成的，上面刻著許多神秘的文字。我們還發現了一個新的販賣場所，這裏有許多古老的貨物。這些貨物都是用木頭或竹子製成的，上面刻著許多神秘的文字。我們還發現了一個新的祭祀場所，這裏有許多古老的石碑和石像。這些石碑和石像都是用青銅或鐵鑄成的，上面刻著許多神秘的文字。我們還發現了一個新的居住區，這裏有許多古老的房屋和庭院。這些房屋和庭院都是用土磚或石頭砌成的，建築風格非常獨特。我們還發現了一個新的工作場所，這裏有許多古老的工具和機器。這些工具和機器都是用鐵或銅製成的，上面刻著許多神秘的文字。我們還發現了一個新的販賣場所，這裏有許多古老的貨物。這些貨物都是用木頭或竹子製成的，上面刻著許多神秘的文字。

總之，這次調查發現了許多新的考古學證據。

（未完待續）

例　　言

1. 本書は八尾市東本町1丁目～東本町4丁目地内で実施した道路築造事業に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する東郷遺跡第46次調査(TG94-46)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書(八教社文第100号 平成5年11月22日)に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成6年7月11日から平成6年9月27日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約1500m²を測る。なお調査には中西明美、能勢尚樹、西村和子、石原好恵、荒川健作が参加した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物復元－西村(公)・中西・西村(和)、遺物実測－中西・西村(和)・石原、図面レイアウト・トレース－西村(公)・中西・西村(和)・石原、遺物写真撮影－西村(公)が行なった。
1. 本書の執筆および編集は西村(公)が行なった。

本　文　目　次

1.はじめに.....	59
2. 調査概要.....	59
1) 調査の方法と経過.....	59
2) 基本層序.....	61
3) 検出遺構と出土遺物.....	64
① A区.....	64
② B区.....	67
③ C区.....	69
④ D区.....	69
3.まとめ.....	73

IV 東郷遺跡第46次調査 (TG94-46)

1. はじめに

東郷遺跡は、八尾市の中央や北西に位置し、現在の行政区画では北本町・東本町・光町・桜ヶ丘・庄内町…等がその範囲となっている。当遺跡の北東部には古墳時代前期の集落を検出している資振遺跡が、また南部には弥生時代後期から中世の集落が検出されている成法寺遺跡がある。

当遺跡内では、当調査研究会と八尾市教育委員会が48件の調査を行なっている他、大阪府教育委員会でも数件の発掘調査を行なっており、弥生時代から近世に至る遺跡であることが判明している。

今回調査を行なった場所は、八尾市東本町1丁目～東本町4丁目地内で、八尾市教育委員会が行なった第10次調査地の南約100m地点にあたる。従来から当調査地近辺では発掘調査が行なわれており、弥生時代から近世に至るまでの遺構及び遺物が出土している。このことから、今回の築造工事に伴い発掘調査を実施するに至ったもので、事業者と八尾市教育委員会文化財室・財團法人八尾市文化財調査研究会との間で取りかわした三者協定に基づき財團法人八尾市文化財調査研究会が事業者から委託を受けて実施した発掘調査である。現地発掘調査の期間は平成6年7月18日から9月27日で、調査面積は1500m²を測る。

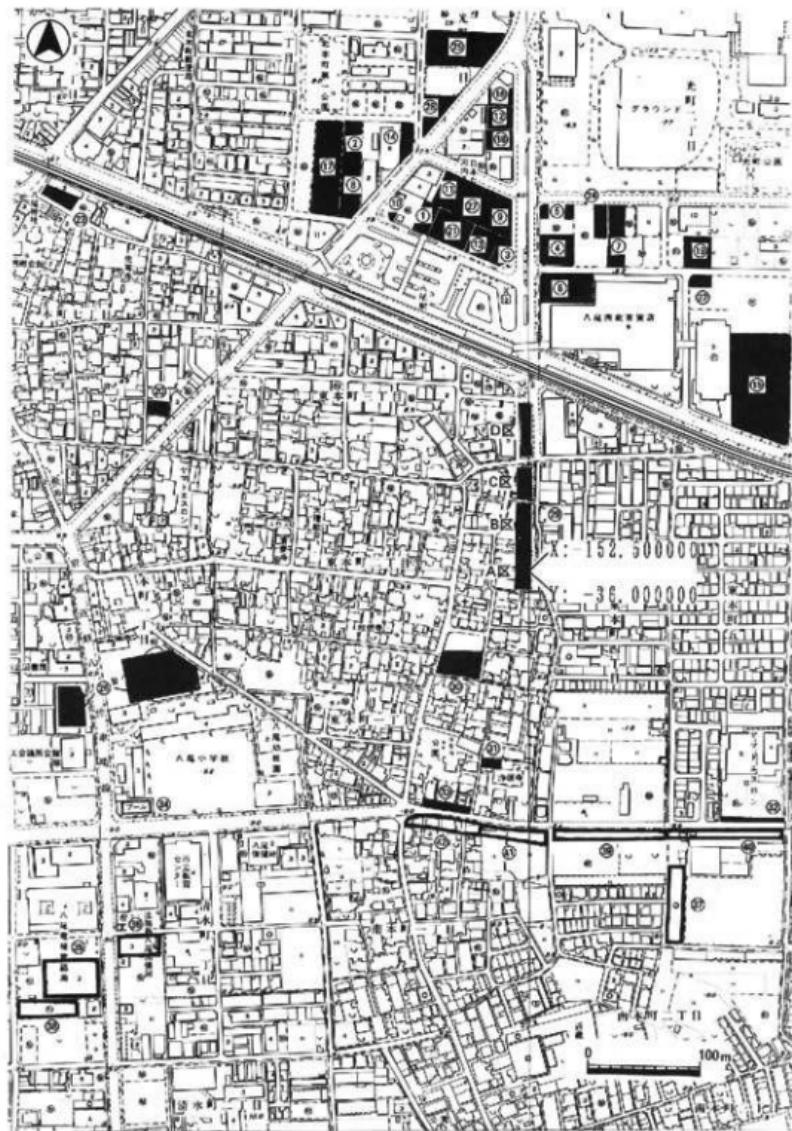
2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は道路築造工事に伴うもので、当調査研究会が東郷遺跡内で行なった第46次調査である。調査は築造部分を対象に約1500m²を行なった。

調査では、調査地の南東側に基準の杭(任意)を打ち、そこから、北に165m、西に20mの範囲を地区割した。地区割には南東隅から西に5m毎にアルファベット(A～D)・北に5m毎にアラビア数字(1～33)を名付けた。1A～33Dの範囲が今回の地区割である。地区割の南東隅にはX:0・Y:0を設け、その地点から北にX:0～X:165、西にY:0～Y:20を設定し、X・Yの交点を地点の名称とした。調査地はA区～D区と4箇所に分割し、南側のA区から調査開始した。

調査にあたっては、八尾市教育委員会が実施した調査の成果をもとに、現地表下0.8～1.2mまでに存在する盛上・旧耕土を機械で掘削し、以下約0.3～0.5mは人力掘削を行ない、2面(第1面～第2面)にわたる調査を実施した。



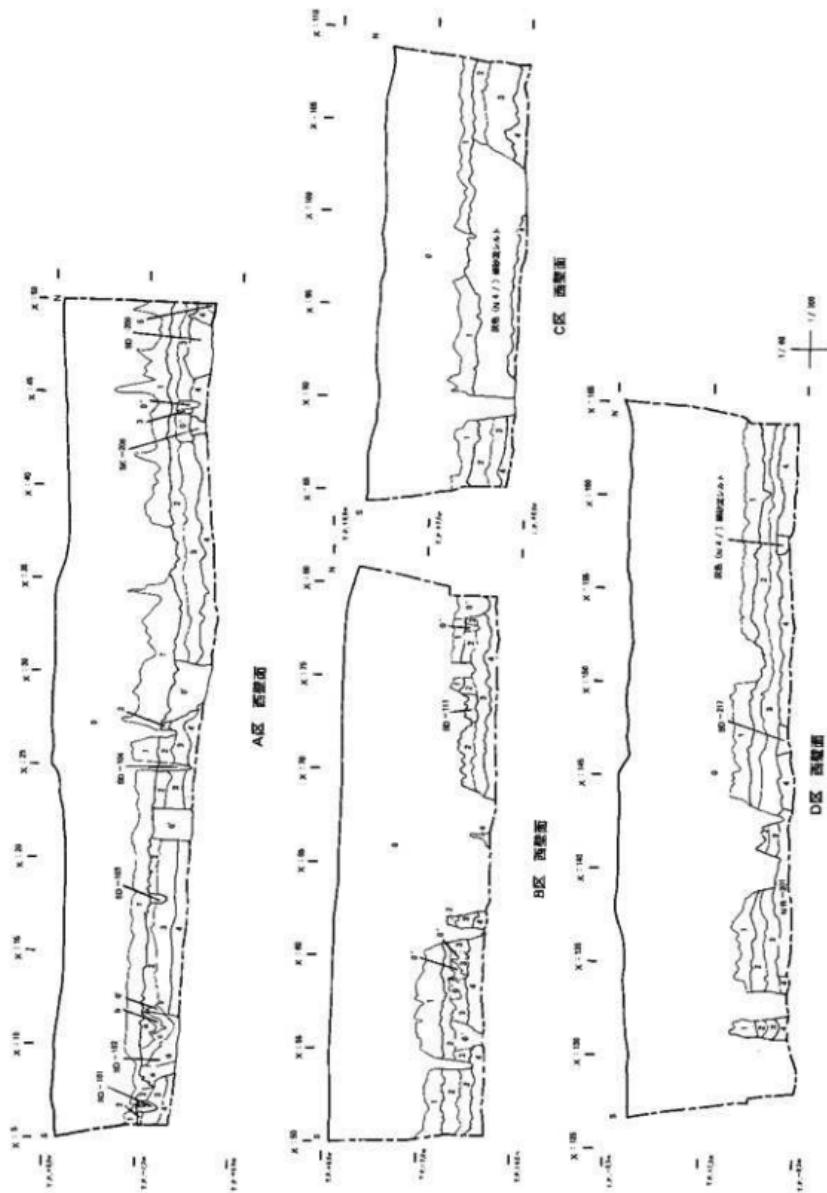
第1図 調査地周辺図

2) 基本層序

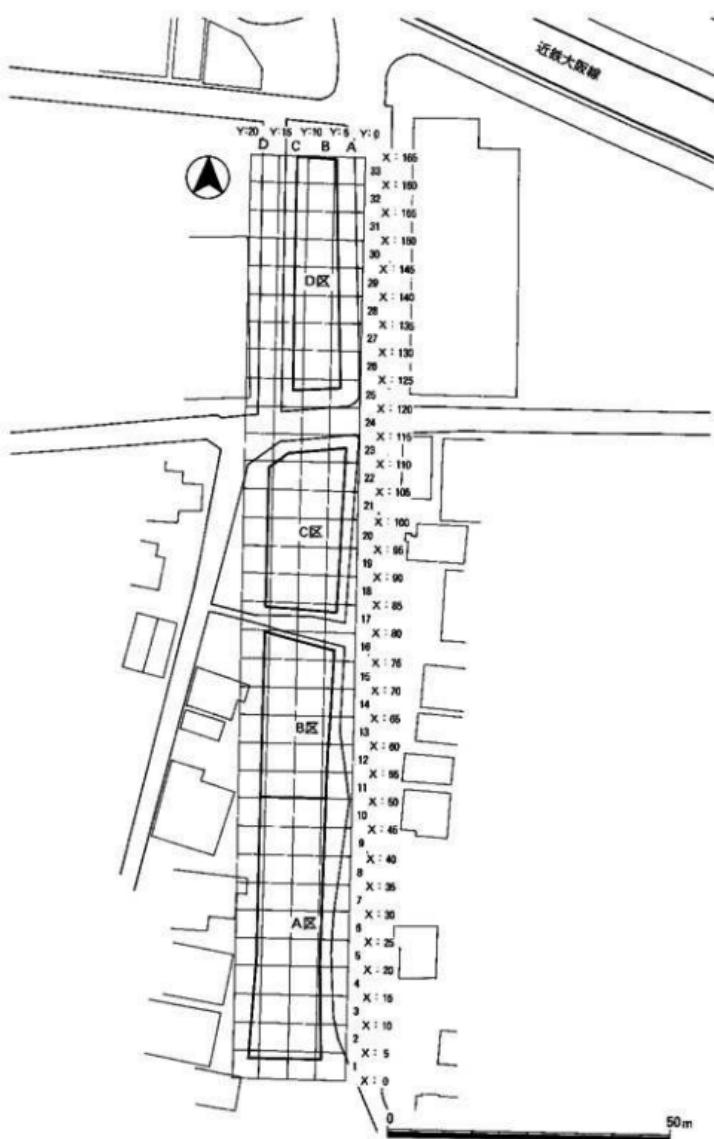
- 第0層 盛土。層厚0.7~1.2m。
- 第1層 灰色(5Y 4/1)粗砂混粘土。層厚0.1~0.4m。近世の遺物含む。
- 第2層 褐色(10YR 4/4)細砂混粘土。層厚0.1~0.2m。平安時代後期~近世の遺物含む。
上面は中世末~近世の遺構検出面である。
- 第3層 黄褐色(2.5Y 5/6)細砂混粘土。層厚0.1~0.2m。
- 第4層 暗緑灰色(7.5GY 4/1)シルト混粘質土。層厚0.1~0.2m。
上面は弥生時代・古墳時代前期・中世の遺構検出面である。
- 第5層 灰色(N 4/)シルト混微砂。層厚0.1m以上。

○番号	遺跡	調査面別	調査原因	住 所	範囲	備考
①	東郷	S560413~0416	貸ビル	光町1丁目60-2	市教委	(TG81-03)
②	東郷	S560513~0526	貸ビル	北本町2丁目145-12	市教委	(TG81-04)
③	東郷	S560608~0707	貸ビル	光町1丁目88	市教委	(TG81-05)
④	東郷	S561015~1204	貸ビル	光町2丁目156	市教委	(TG81-08)
⑤	東郷	S561204~1223	貸ビル	光町1丁目47	市教委	(TG81-09)
⑥	東郷	S570201~0312	貸ビル	光町2丁目17	市教委	(TG82-10)
⑦	東郷	S570608~0610	共同住宅	光町2丁目	市教委	(TG82-11)
⑧	東郷	S570805~0827	貸ビル	北本町3丁目133-1-2 134-3	研究会	(TG82-12)
⑨	東郷	S580318~0421	店舗	光町1丁目72	研究会	(TG82-14)
⑩	東郷	S580513~0525	貸ビル	光町1丁目66-2	研究会	(TG83-15)
⑪	東郷	S580601~0813	貸ビル	光町1丁目60-2	研究会	(TG83-16)
⑫	東郷	S581124~1215	貸ビル	光町1丁目47-1他	研究会	(TG83-17)
⑬	東郷	S590301~0410	店舗住宅	光町1丁目19-3	研究会	(TG83-18)
⑭	東郷	S600401~0427	ビル建設	北本町2丁目232	市教委	(TG85-19)
⑮	東郷	S601028~S610310	文化会館建設	光町1丁目40地	研究会	(TG85-20)
⑯	東郷	S611028~1115	病院施設	光町1丁目43-44	市教委	(TG86-21)
⑰	東郷	S620720~0917	共同住宅	北本町1丁目240~242	研究会	(TG86-25)
⑱	東郷	S630726~0811	ビル建設	光町1丁目47	研究会	(TG88-28)
⑲	東郷	H010306~0325	共同住宅	光町2丁目28-1	研究会	(TG88-29)
⑳	東郷	H010417~0428	共同住宅	本町7丁目39-1	研究会	(TG89-30)
㉑	東郷	H010518~0708	事務所建設	光町1丁目61	研究会	(TG89-31)
㉒	東郷	H010905~1007	共同住宅	光町2丁目46	研究会	(TG89-32)
㉓	東郷	H030106~0123	共同住宅	本町7丁目89-2 基地8.8畝	研究会	(TG90-34)
㉔	東郷	H030304~0319	共同住宅	光町1丁目19	研究会	(TG90-36)
㉕	東郷	H030320~0618	自動車販売場	光町1丁目37番地	研究会	(TG91-36)
㉖	東郷	H103061~0930	市役所建て替え	本町1丁目91-2 114	研究会	(TG91-37)
㉗	東郷	H105063~0635	共同住宅	光町1丁目51番地-52番地	研究会	(TG93-40)
㉘	東郷	H060110~0209	市テラス建設	光町1丁目39-40-41	研究会	(TG93-44)
㉙	東郷	H060718~0927	道床整備	東本町1丁目~4丁目地内	研究会	(TG94-46) 今回の調査
㉚	東郷	S5406	児童幼稚	東本町1丁目	市教委	
㉛	東郷	S5903	個人住宅建設	東本町1丁目	市教委	
㉜	東郷	H0507	道路整備	東本町5丁目	府教委	
㉝	東郷	H0608	道路整備	東本町1丁目	府教委	
㉞	成法寺	S5703	八尾小学校ホール建設	本町1丁目	市教委	
㉟	成法寺	S5607~S5609	電信箱公井建設	光町1丁目	市教委	
㉟	成法寺	S5907	貸歩道所建設	南本町1丁目	市教委	
㉟	成法寺	S631107~1206	事務所建設	南本町1丁目10-1	研究会	(SH88-04)
㉟	成法寺	H011009~1116	共同住宅建設	光町1丁目46, 47-1	研究会	(SH89-05)
㉟	成法寺	S601111~1218	道路整備	南本町1丁目	府教委	大阪府教育委員会発行 『成法寺遺跡発掘調査報告書』1~3章 参照
㉟	成法寺	S62	道路整備	南本町1丁目	府教委	
㉟	成法寺	H0305~H0309	道路整備	南本町1丁目	府教委	
㉟	成法寺	H0307~H0601	道路整備	南本町1丁目	府教委	

第1表 東郷遺跡・成法寺遺跡調査一覧表



第2図 基本層序図



第3図 調査区設定図

3) 検出遺構と出土遺物

① A区

第1面

現地表下1.0m（標高T.P.+7.0m）に存在する第2層上面で、近世の土坑2基（SK-101・SK-102）、溝9条（SD-101～SD-109）を検出した。

SK-101

8B・C地区で検出した。平面の形状は梢円形である。長径1.6m、短径1.3m、深さ0.05mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）細砂混粘土である。土坑内からは瓦器の楕の破片が出土した。

SK-102

8C地区で検出した。平面の形状は梢円形である。長径1.6m、短径1.4m、深さ0.5mを測る。埋土は上から灰色（7.5Y 4/1）シルト混粘土、灰色（N 5/）細砂混粘土、暗灰色（N 3/）粘土である。土坑内からは磁器の楕（1）、陶器のすり鉢（2）が出土した。

SD-101～SD-109

何れの溝も直線に伸びる。東西方向のものはSD-101～SD-104・SD-107・SD-109、南北方向のものはSD-105・SD-106・SD-108である。幅0.25～2.6m、深さ0.05～0.5mを測る。埋土はSD-101・SD-103・SD-104が灰色（N 5/）シルト混粘土で、SD-102が上から褐色（10YR 6/1）粘土、褐色（10YR 5/1）細砂混粘土、灰褐色（5YR 6/2）粘土、灰褐色（5YR 4/2）粘土、灰褐色（5YR 5/2）シルトである。SD-101内からは上師器の小皿（3）、SD-102内からは瓦器の楕（4）と上師器の小皿（5）、SD-103内からは瓦器の楕（6）、SD-106内からは土師器の小皿（7）、SD-108内からは上師器の小皿（8）が出土した。

第2面

現地表下1.5m（標高T.P.+6.5m前後）に存在する第4層上面で、古墳時代前期の土坑8基（SK-201～SK-208）、小穴3個（SP-201～SP-203）、溝11条（SD-201～SD-211）を検出した。

SK-201

2C地区で検出した。平面の形状は梢円形である。長径1.4m、短径1.0m、深さ0.4mを測る。埋土は上から褐色（10YR 4/1）細砂、褐色（10YR 5/1）細砂混粘土、暗青灰色（5B 3/1）粘土である。土坑内からは土師器の破片が少量出土した。

SK-202

3B・C地区で検出した。平面の形状は円形である。径1.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐

色(10YR 4/4)粘土である。土坑内からは土師器の破片が少量出土した。

SK-203

3・4B・C地区で検出した。平面の形状は楕円形である。長径1.5m、短径1.1m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色(10YR 4/4)粘土である。土坑内からは土師器の破片が少量出土した。

SK-204

4B地区で検出した。平面の形状は円形である。径1.6m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色(10YR 4/4)粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-205

8B地区で検出した。平面の形状は円形である。径0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色(10YR 4/4)シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-206

8・9C地区で検出した。平面の形状は楕円形である。長径5.2m、短径1.3m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色(10YR 4/4)シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK-207

10B・C地区で検出した。平面の形状は楕円形である。長径0.8m、短径0.5m、深さ0.15mを測る。埋土は褐色(10YR 4/4)粘土である。土坑内からは土師器の破片が少數出土した。

SK-208

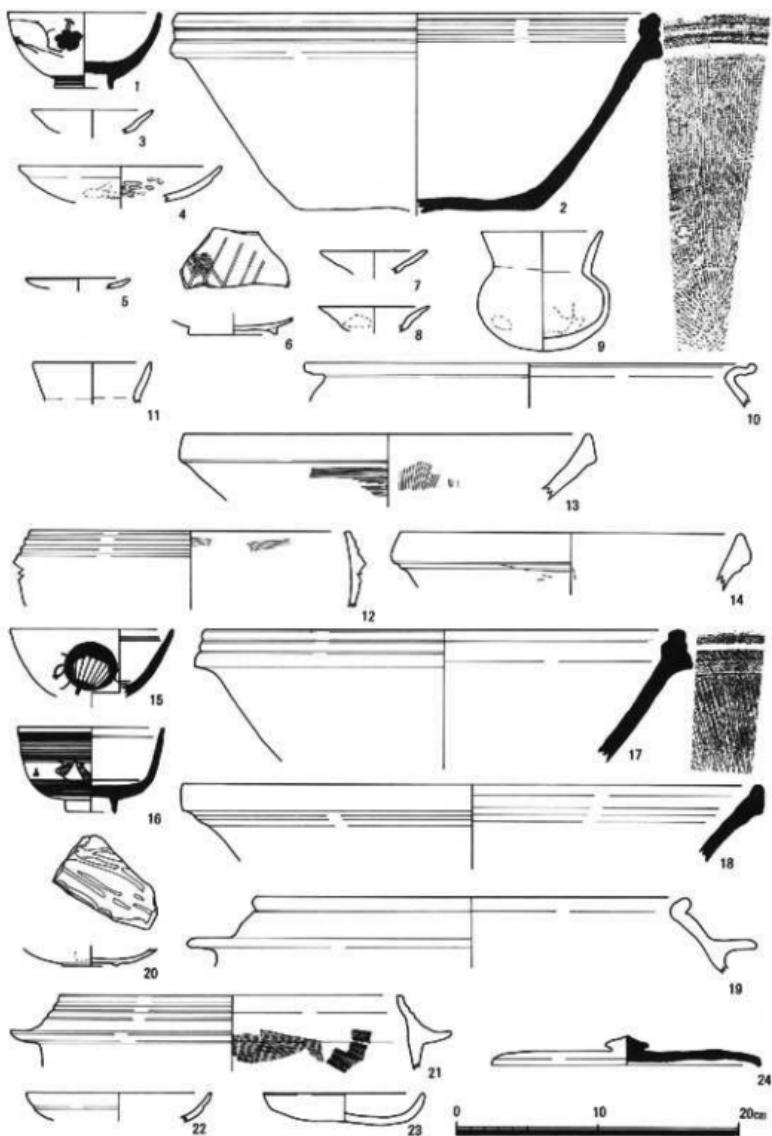
10C地区で検出した。平面の形状は楕円形である。長径1.9m、短径1.6m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色(7.5YR 4/1)シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SP-201~SP-203

平面の形状は、円形および楕円形である。長径0.6~0.8m、短径0.3~0.5m、深さ0.1~0.15mを測る。埋土はSP-201・SP-202が褐色(10YR 4/4)粘土で、SP-203が黒色(7.5YR 2/1)粘土である。SP-203内から古墳時代前期[布留式期]の小型壺(9)が1点ほど発見で出土した。

SD-201~SD-211

直線に伸びるものはSD-201・SD-202・SD-204~206・SD-208~SD-211、L字状に伸びるものは、SD-203、蛇行するものは、SD-207である。幅0.2~3.2m、深さ0.05~0.25mを測る。埋土はSD-201~SD-208・SD-209~SD-211が暗灰色(N 3/)細砂混粘土で、SD-208が上から褐色(7.5YR 4/4)粘土、暗灰色(N 3/)シルト混粘土である。SD-204内からは土師器の羽釜(10)、SD-210内からは土師器の壺(11)が、SD-201・SD-203・SD-206・SD-208・SD-211内からは土師器の破片が少量出土した。



第4図 A区 SK-102 (1・2) SD-101 (3) SD-102 (4・5) SD-103 (6) SD-106 (7)
SD-108 (8) SP-203 (9) SD-204 (10) SD-210 (11) 第1層 (12~17)
第2層 (18~21) 第3層 (22~24) 出土遺物実測図

第1層出土遺物

瓦質の羽釜（12）・すり鉢（13・14）、磁器の椀（15・16）、陶器のすり鉢（17）が出土した。

第2層出土遺物

須恵器の鉢（18）、土師器の羽釜（19）、瓦器の椀（20）、瓦質の羽釜（21）が出土した。

第3層出土遺物

土師器の皿（22・23）、須恵器の杯蓋（24）が出土した。

② B区

第1面

現地表下1.0m（標高T.P.+7.0m）に存在する第2層上面で、近世の溝2条（SD-110・SD-111）を検出した。

SD-110

直線に伸びる。幅0.3～0.5m、深さ0.2～0.3mを測る。埋土は黄灰色（2.5Y 4/1）粗砂混粘土である。SD-110からは近世の磁器の椀（25）が出土した。SD-110は竹筒の暗渠であった。

SD-111

L字状に伸びる。幅2.0～2.4m、深さ0.3mを測る。埋土は灰色（5Y 4/1）細砂混粘土である。溝内からは近世の磁器の椀（26）が出土した。

第2面

現地表下1.5m（標高T.P.+6.5m前後）に存在する第4層上面で、古墳時代前期の上坑1基（SK-209）、小穴12個（SP-204～SP-215）、溝5条（SD-212～SD-216）を検出した。

SK-209

11・12B地区で検出した。平面の形状は楕円形である。長径2.1m、短径2.0m、深さ0.2mを測る。埋土は上から灰色（N 5/）粘土、暗灰色（N 3/）シルトである。土坑内からは瓦器の椀（27）、瓦質の羽釜（28）、土師器の小皿（29）が出土した。

SP-204～215

平面の形状が円形のものはSP-204～SP-209・SP-213・SP-214で、径0.2m～0.75m、深さ0.05m～0.15m、楕円形のものはSP-210～SP-212・SP-215で、長径0.4m～0.6m、短径0.3m～0.35m、深さ0.05m～0.15mを測る。埋土は灰色（5Y 4/1）シルト混粘土である。小穴内からの遺物の出土はなかった。

SD-212

直線に伸びる溝で、幅0.2m～2.0m、深さ0.05m～0.6mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）粘土で、土師器の破片が少量出土した。

SD-213

直線に伸びる溝で、幅0.2m～2.0m、深さ0.05m～0.6mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）粘土で、土師器の破片が少量出土した。

SD-214

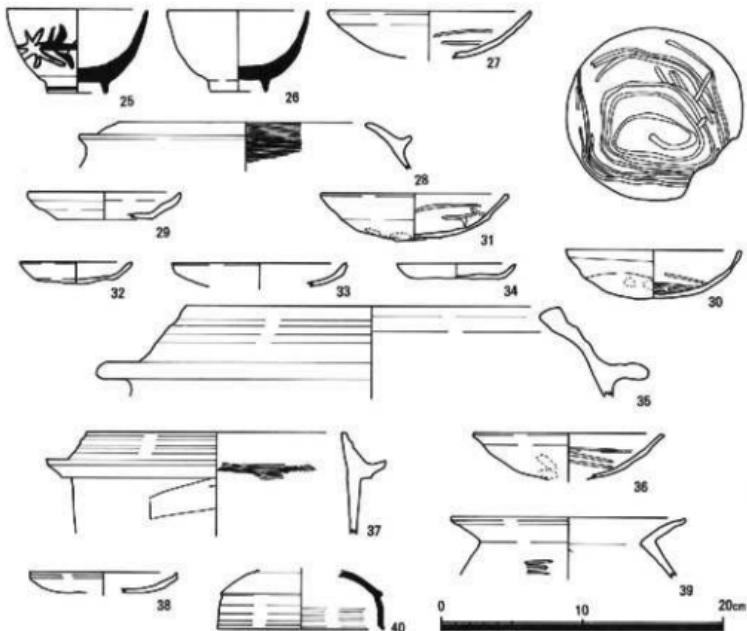
直線に伸びる溝で、幅0.2m～2.0m、深さ0.05m～0.6mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）粘土で、土師器の破片が少量出土した。

SD-215

直線に伸びる溝で、幅0.2m～2.0m、深さ0.05m～0.6mを測る。上から灰色（5Y 4/1）細砂混粘土、灰色（N 5/）粘土、灰色（N 4/）粘土、褐色（10YR 4/4）粘土である。溝内からは瓦器の椀（30・31）・小皿（32）、土師器の小皿（33・34）・羽釜（35）が少量出土した。

SD-216

直線に伸びる溝で、幅0.2m～2.0m、深さ0.05m～0.6mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）粘土で、土師器の破片が少量出土した。



第5図 B区 SD-110 (25) SD-111 (26) SK-209 (27~29) SD-215 (30~35)
第1層 (36) 第2層 (37・38) 第3層 (39・40) 出土遺物実測図

第1層出土遺物

瓦器の椀(36)が出土した。

第2層出土遺物

瓦質の羽釜(37)、土師器の小皿(38)が出土した。

第3層出土遺物

土師器の壺(39)、須恵器の杯蓋(40)が出土した。

③ C区

第1面

現地表下1.0m(標高T.P.+6.5m前後)に存在する第2層上面で、近世の溝2条(SD-112・SD-112・SD-113)を検出した。

SD-112・SD-113

南北方向に蛇行して伸びる。幅0.4m、深さ0.7mを測る。埋土は灰色(5Y 4/1)細砂混粘土である。両方の溝は竹筒の暗渠である。溝内からの遺物の出土はなかった。

第2面

現地表下1.5m(標高T.P.+6.5m前後)に存在する第4層上面で、古墳時代前期の小穴6個(SP-216~SP-221)を検出した。

SP-216~221

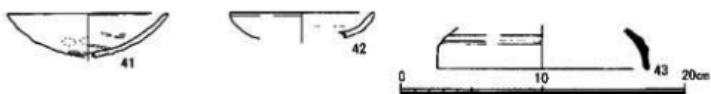
平面の形状は梢円形である。長径0.5m~1.0m、短径0.2m~0.8m、深さ0.1m~0.2mを測る。埋土は灰色(N 4/)粘土である。SP-216内からは土師器の破片が少量出土した。

第2層出土遺物

瓦器の椀(41)、土師器の小皿(42)が出土した。

第3層出土遺物

須恵器の杯蓋(43)が出土した。



第6図 C区 第2層(41・42) 第3層(43)出土遺物実測図

④ D区

第1面

現地表下1.0m(標高T.P.+6.6m前後)に存在する第2層上面で調査を行なったが遺構の検出はなかった。

第2面

現地表下1.5m（標高T.P.+6.1m前後）に存在する第4層上面で、古墳時代前期の土坑1基（SK-210）、小穴4個（SP-222～SP-225）、溝3条（SD-217～SD-219）、自然河川1条（NR-201）を検出した。

SK-210

32B地区で検出した。平面の形状は円形である。径1.1m、深さ0.05mを測る。埋土は灰色（5Y 4/1）シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SP-222～225

平面の形状は円形である。径0.4～0.6m、深さ0.05mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）シルト混粘土である。小穴内からの遺物の出土はなかった。

SD-217

直線に伸びる溝で、幅1.2m、深さ0.05mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-218

直線に伸びる溝で、幅2.1m、深さ0.05mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD-219

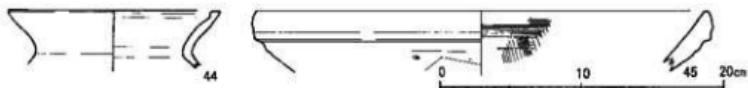
直線に伸びる溝で、幅0.65m、深さ0.05mを測る。埋土は褐色（10YR 4/4）混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

NR-201

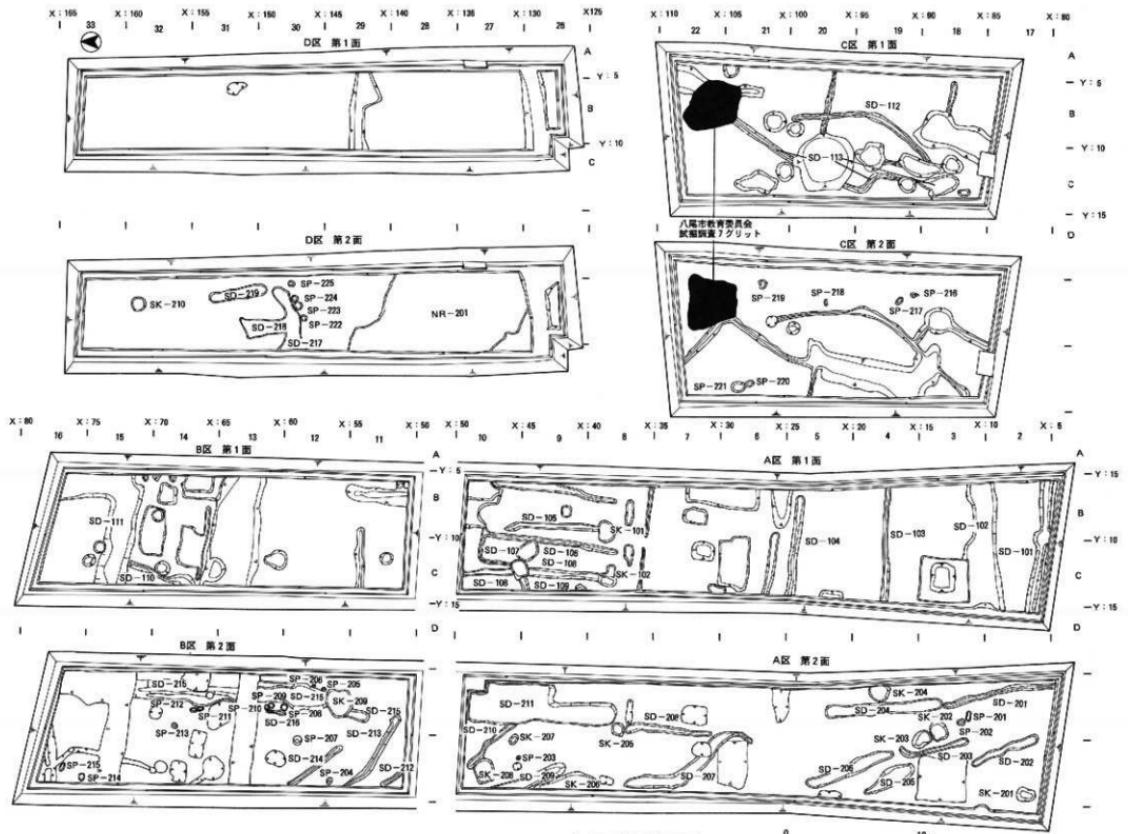
26～29 A～C地区で検出した。南東から北西方向に直線に伸びる。幅10m、深さ0.35mを測る。埋土は灰色（10YR 5/1）粗砂混疊である。河川内からは古墳時代前期〔布留式期〕の甕（44）が出土した。

第2層出土遺物

瓦質の鉢（45）が出土した。



第7図 D区 NR-201 (44) 第2層 (45) 出土遺物実測図



第8図 検出遺構平面図

3. まとめ

今回の調査の結果、中世末～近世【第1面】と弥生時代中期・古墳時代前期・中世【第2面】の遺構を検出した。

【第1面】

中世末～近世

第1面では、中世末～近世の遺構を検出した。東西方向と南北方向に伸びる溝が七で、中世末以降は、条里に伴う耕地区画があったと考えられる。

【第2面】

中世

中世の遺構は溝1条(SD-215)である。内部からは比較的良好な形で鎌倉時代から室町時代(14世紀後半から15世紀前葉頃)の遺物が出土している。流れ込みの遺物ではなく、溝に意識的に投棄したものと思われ、近くに集落が存在していたと推測される。

古墳時代前期

古墳時代前期の遺構内からの遺物の出土は極少量であったが、SP-203内からは古墳時代前期の布留式期の新しい段階の小型壺が1点ほぼ完形のまま出土していることから、当時の集落(居住域)がA区の周辺に存在していた可能性が考えられる。

D区で検出した自然河川(NR-201)は、古墳時代前期の布留式期の新しい段階に埋没し機能を停止していると考えられる。この河川より南側のA区では、河川が埋没し機能を停止する時期である布留式期の新しい段階の遺構を検出している。また、河川より北側の現在の近鉄八尾駅前周辺の発掘調査では、庄内式期の遺構を多数検出している。このことから、今回検出した河川(NR-201)を境に北は庄内式期、南は布留式期と時期が異なる集落(居住域)が存在していたと推定できる。

弥生時代中期

なお、当調査の事前調査として平成5年10月18日から22日にかけて八尾市教育委員会文化財課が発掘調査を行なっている。この調査の7グリットでは、弥生時代中期の小穴1個を検出しており、内部からは同時期の水差し形土器が1点出土している。^{註1}

当調査地のC区北側に7グリットがあり、「孔調査」と同様、当調査では小穴の横山はあったが、弥生時代中期の遺物の出土はなかった。

註1 八尾市教育委員会「八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書II」1994. 3

八尾市文化財調査報告30 平成5年度公共事業



調査区周辺（南東から）



A区 調査状況（南から）



A区 第1面全景（南から）



A区 第2面全景（南から）



A区 SP-203遺物出土状況（北から）



B区 第1面全景（南から）



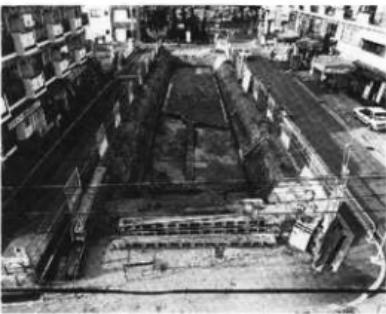
B区 第2面全景（南から）



C区 第1面全景（南から）



C区 第2面全景（南から）



D区 第2面全景（南から）



9



18



19



30



24



31



37



A区 SP-203 (9) 第2層 (18・19) 第3層 (24) B区 SD-215 (30・31) 第2層 (37) 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうごういせき ざいだんほうじん やおしほんかざいちょうさけんきゅうかいはうこく					
書名	東郷遺跡 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告48					
副書名	I 東郷遺跡（第30次調査） II 東郷遺跡（第42次調査） III 東郷遺跡（第45次調査） IV 東郷遺跡（第46次調査）					
巻次						
シリーズ名	財團法人 八尾市文化財調査研究会報告					
シリーズ番号	48					
編集者名	岡田清一 西村公助					
編集機関	財團法人 八尾市文化財調査研究会					
所在地	〒581 八尾市青山町4丁目4番18号 TEL 0729-94-4700					
発行年月日	西暦1995年7月					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	(n)
とうごう 東郷遺跡 (第30次調査)	おおさかふやおしほんまち 大阪府八尾市本町7丁目39-1	27212	34度 37分 37秒	135度 36分 14秒	平成元年 4月17日～ 4月27日	85
とうごう 東郷遺跡 (第42次調査)	おおさかふやおしじょうないちょう 大阪府八尾市住内町1丁目 28-10	27212	34度 37分 22秒	135度 36分 38秒	平成5年 12月1日～ 12月18日	260
とうごう 東郷遺跡 (第45次調査)	おおさかふやおしさくらがおか 大阪府八尾市桜ヶ丘3丁目45番、 49番	27212	34度 37分 45秒	135度 36分 39秒	平成6年 3月16日～ 4月1日	200
とうごう 東郷遺跡 (第46次調査)	おおさかふやおしひがしまんまち 大阪府八尾市東本町1丁目～ 東本町4丁目	27212	34度 37分 30秒	135度 38分 26秒	平成6年 7月11日～ 9月27日	1500
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東郷遺跡 第30次	集落遺構	縄文時代	井戸 土坑	瓦器		
		近世	小穴			
東郷遺跡 第42次	集落遺構	古墳時代前期 (布留式期)	溝	土師器(布留式期)		
	集落遺構	縄文時代	溝	瓦器		
東郷遺跡 第45次	集落遺構	古墳時代前期	土坑	土師器(布留式期)		
	集落遺構	古墳時代中期	溝	須恵器 盖・杯		
東郷遺跡 第46次	集落遺構	古墳時代後期	土坑	須恵器 提瓶		
	集落遺構	奈良時代	溝 土坑	須恵器 杯		
東郷遺跡 第46次	生産遺構	近世	井戸	四系陶磁器(伊万里・唐津・美濃)		
	集落遺構	発生時代中期	小穴			
東郷遺跡 第46次	集落遺構	古墳時代前期	小穴 河川			
	集落遺構	中世	溝			
集落遺構	中世末～近世	溝 土坑				

東郷遺跡

八尾市文化財調査研究会報告48

- I 東郷遺跡（第30次調査）
- II 東郷遺跡（第42次調査）
- III 東郷遺跡（第45次調査）
- IV 東郷遺跡（第46次調査）

発行 1995年7月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市青山町4丁目4番18号
TEL・FAX 0729-94-4700

印刷 明新印刷株式会社

表紙	レザック66	<260kg>
本文	書籍L	<70kg>
図版	書籍L	<70kg>

